

2024年度（令和6年度）

事業計画書



目 次

	ページ
1. 法 人	5
2. 短 期 大 学	9
3. 専 攻 科	17
4. キリスト教活動	18
5. 研 究 活 動	21
6. 委 員 会 活 動	35
7. 広 報 活 動	52
8. 施設・設備・経費	54
9. 財務計算書 (5 年推移)	57

和泉短期大学の沿革

1956年5月 (昭和31年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が、米国財団クリスチャン・チルドレンズ・ファン ドの援助のもとに バット博士記念養成所 を設立、収容施設従事者を対象とする 諸々の現任訓練講習会を開催、従事者の技能研鑽を授け、以って我が国養護事業 内容充実に力を尽くした。
1960年5月 (昭和35年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が我が国はじめての収容施設保母の養成を主眼 とした 玉川保母専門学院 を東京都世田谷区に開設、同時に 児童福祉研究所 を開 設して現任訓練及び研究事業を強化した。
1964年6月 (昭和39年)	玉川保母専門学院並びに児童福祉研究所を母体とした和泉短期大学開設並びに 学校法人クラーク学園の設立準備に着手した。
1965年4月 (昭和40年)	学校法人クラーク学園 設立認可、 眞鍋頼一氏 が理事長に就任した。同じく 和泉 短期大学 児童福祉科(定員40名)設立が認可され、 中島武夫氏 が学長に就任した。
1966年3月 (昭和41年)	幼稚園教諭二級普通免許状 取得のための正規の課程として認定された。
1971年11月 (昭和46年)	眞鍋頼一理事長逝去の為、理事 郷司浩平氏 が理事長に就任した。
1976年4月 (昭和51年)	中島武夫学長退任、後任として常務理事 野口敏雄氏 が学長に就任した。
4月	学生入学定員 250名 に変更認可された。
8月	全学神奈川県相模原市の 新校舎 に移転した。
1978年2月 (昭和53年)	郷司浩平理事長が退任、後任として理事 中島武夫氏 が理事長に就任した。
1981年2月 (昭和56年)	中島武夫理事長逝去の為、理事 伊藤忠利氏 が理事長に就任した。
7月	野口敏雄学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長代行として就任した。
1982年4月 (昭和57年)	北原歌子学長代行退任、後任として教授 花村春樹氏 が学長に就任した。
1985年4月 (昭和60年)	法人内に 和泉老人福祉専門学校 を開校した。(定員80名)
1986年6月 (昭和61年)	伊藤忠利理事長が退任、後任として理事 阪田勝三氏 が理事長に就任した。
1988年3月 (昭和63年)	和泉老人福祉専門学校が、厚生省より 介護福祉士養成校 としての指定認可を受 けた。(定員100名)
4月	短大児童福祉科で 社会福祉士国家試験受験資格 の指定科目の開設を届出た。
1990年4月 (平成2年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取 得の課程として認可された。
1991年3月 (平成3年)	社会福祉主事任用資格 の科目の届出を行い、同資格を取得可能とした。
1992年2月 (平成4年)	保母養成課程 が改訂され、学則変更を行って新しい保母養成課程として認定された。
4月	和泉老人福祉専門学校の名称変更を行い、 和泉福祉専門学校 とした。
9月	花村春樹学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長に就任した。
1995年4月 (平成7年)	北原歌子学長退任、後任として 阪田勝三理事長 が学長に就任した。
1996年4月 (平成8年)	阪田勝三理事長退任、後任として理事 平良氏 が理事長に就任した。 阪田勝三学長退任、後任として 讃岐和家氏 が学長に就任した。

1999年4月 (平成11年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2000年4月 (平成12年)	児童福祉科の名称変更を行い、 児童福祉学科 とした。
2001年4月 (平成13年)	男女共学制度 を導入した。
2002年4月 (平成14年)	讃岐和家学長退任、後任として教授 伊藤忠彦氏 が学長に就任した。
2006年5月 (平成18年)	学校法人クラーク学園 創立 50 周年記念式典 が行われた。
2008年3月 (平成20年)	(財)短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
6月	平良理事長 退任、後任として 伊藤忠彦学長 が理事長を兼任した。 (深町正信氏 が理事長に就任するまでの間)
10月	伊藤忠彦理事長 退任、後任として理事 深町正信氏 が理事長に就任した。
2010年3月 (平成22年)	和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を廃止した。
4月	和泉短期大学に 専攻科介護福祉専攻 を開設した。(定員 20名)
2013年4月 (平成25年)	学校法人クラーク学園の名称変更を行い、 学校法人和泉短期大学 とした。
2014年4月 (平成26年)	伊藤忠彦学長退任、後任として教授 佐藤守男氏 が学長に就任した。
2015年3月 (平成27年)	(財)短期大学基準協会の2回目の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2016年5月 (平成28年)	法人創立 60 周年記念式典、祝賀会、記念講演を開催した。
2017年10月 (平成29年)	児童福祉研究室設置
2019年1月 (平成31年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2020年6月 (令和2年)	深町正信理事長 退任、後任として理事 伊藤忠彦氏 が理事長に就任した。
2022年3月 (令和4年)	(一財)大学・短期大学基準協会の3回目の「認証評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2022年4月 (令和4年)	学生入学 定員 200名 に変更認可された。 伊藤忠彦理事長 退任、後任として理事 須田拓氏 が理事長に就任した。
2023年4月 (令和5年)	こども支援ソーシャルワーカー、ヒューマンソーシャルワーカー資格 を創設した。
2024年4月 (令和6年)	専攻科介護福祉専攻の名称変更を行い、 専攻科ヒューマンケア専攻 とした。

設置学校 学校法人和泉短期大学
 理事長 須田 拓 (すだ たく)
 所在地：神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1
 学 長 佐藤 守男 (さとう もりお)

設置学科名	入学定員	収容定員
児童福祉学科 (2年制)	200名	400名
専攻科ヒューマンケア専攻 (1年制)	20名	20名

建学の精神

キリスト教信仰に基づく教育と人格形成

教育理念

2016年2月24日教授会改訂

本学は、建学の精神であるキリスト教信仰に基づき、
スクールモットーである愛と奉仕を実践する人、
地域社会のあらゆる局面で積極的な貢献を成し得る人、
保育・福祉専門職として謙虚に学び続ける意志をもつ人への実力養成教育を授ける。

スクールモットー

愛と奉仕

「あなたがたの光を人々の前で輝かしなさい。」(聖書：マタイによる福音書第5章16節)

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

2020年3月9日教授会改訂

本学の建学の精神(キリスト教信仰に基づく教育と人格形成)、スクールモットー(愛と奉仕)に基づくカリキュラムを履修して、卒業に必要な所定以上の単位を修得し、下記の要件を満たす学生に対し、短期大学士(児童福祉学)の学位を授与します。

1. 保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、基礎学力、幅広い教養、礼節を身につけ、多世代にわたる人々の人権を尊重できる。
2. 保育・福祉に関する専門的な学修を通じて、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。
3. 保育・福祉の専門的な価値観、知識・技能を修得し、自ら考える力、自ら行動する力、コミュニケーション能力を身につけている。
4. 保育・福祉の専門職として多角的な視点を持ち、共生社会の実現に向けて主体的かつ自律的に学び続け、愛と奉仕の精神を実践できる。

教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

2020年3月9日教授会改訂

本学は、Ⅰ教養、Ⅱ原理、Ⅲ知識・技能、Ⅳ実践の4科目群を配置しています。

Ⅰ教養は、キリスト教の精神を踏まえて、人々の権利を護り共に生きる人としての価値観を養うための科目

Ⅱ原理は、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕を実践する人間観を養うことができる科目

Ⅲ知識・技能は、子どもと子どもを取り巻く環境を知り、様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につけることができる科目

Ⅳ実践は、身につけた価値観・知識・技能を現場に即して実践し、共に成長する体験を積む中で学び直し、キャリア形成の基礎を培うことができる科目

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

2024年1月24日教授会改訂

【本学が求める人材像】

1. 本学の建学の精神（キリスト教信仰に基づく教育と人格形成）、スクールモットー（愛と奉仕）に基づき、すべての人々が共に生きる社会の実現に貢献したいと考える人。
2. 知識・技能、思考力・判断力・表現力等において、高等学校等で修得すべき基礎的な能力を身につけている人。

【入学者選抜の基本的方針】

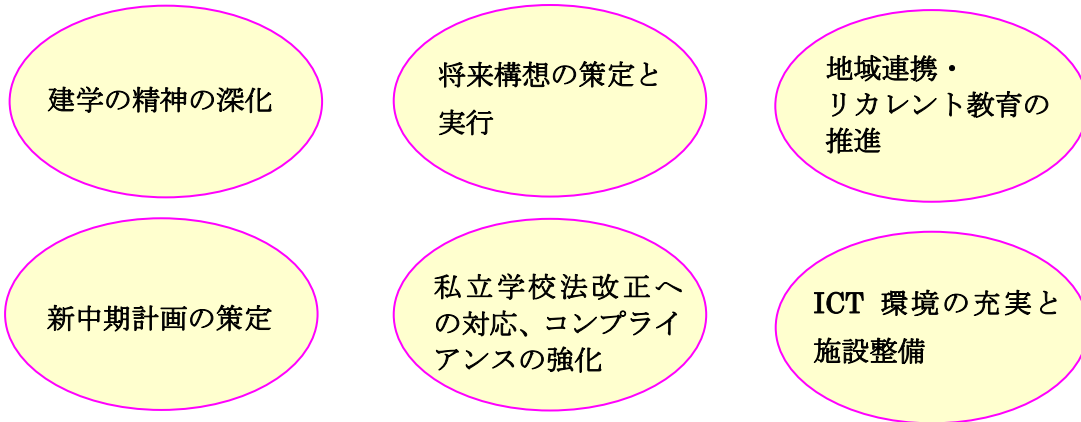
1. 入学者選抜は、高等学校等で修得すべき基礎的な能力および課題に積極的に取り組む意欲を有しているかについて評価する。
2. 筆記試験においては、主に知識・技能、思考力・判断力・表現力など、高等学校等で修得すべき基礎的な能力を、面接試験においては、主に保育・福祉への関心、好奇心など、学習に取り組む主体的意欲を評価する。

1. 2024 年度学校法人和泉短期大学基本構想

理事長 須田 拓

建学の精神 【キリスト教信仰に基づく教育と人格形成】

スクールモットー 【愛と奉仕】 【「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第 5 章 16 節】



大学を取り巻く環境

18 才人口の減少	大学進学率		入学定員未充足	大学の離学者・休学者
	大学	短期大学		
1992 年 205 万人 2024 年 106 万人 2040 年 76 万人 (予想)	1992 年度 24.6% 2023 年度 57.7%	1992 年度 11.7% 2023 年度 3.4%	2023 年度 大学 53.3% 短大 92.0%	約 130,000 人 4.5% (学習意欲の喪失、経済的困窮、 学生生活不適応、心身耗弱、疾患)

今年度の目標と課題

<p>1. 建学の精神の深化</p> <p>本学がキリスト教学校であるとはどういうことか、キリスト教信仰とは何か、教職員全体で研修の時を持ちたいと願います。本学のこれからの方向性を打ち出さなければならない大切な時期であるからこそ、原点に立ち返り、そこにしっかりと立脚することが必要です。</p>	<p>4. 新中期計画の策定</p> <p>第二次中期計画の最終年度にあたる 2024 年度は、達成状況を振り返ると共に、将来構想を踏まえ、これからの本学の方向性を明らかにする第三次中期計画を 2024 年度の早い時期に策定いたします。</p>
<p>2. 将来構想の策定と実行</p> <p>将来構想会議を継続的全学的に開催し、理事会とも連携して参りました。新しい取り組みを軌道に乗せつつ、これからの時代に必要な保育者・福祉従事者像を示していきたいと思えます。また、本学の教育がどのような可能性をもっているのか、子どもの成長を支援する社会の実現に寄与出来ないかなどを検討し、学生募集にも生かしていきたいと思えます。</p>	<p>5. 私立学校法改正への対応、コンプライアンスの強化</p> <p>私立学校法改正に対応するために必要な寄附行為等の改正を行うと共に、ガバナンスをさらに強化し、求められる学校法人のあり方を進め、ますます社会から信頼される学校であることができるよう努めて参ります。</p>
<p>3. 地域連携・リカレント教育の推進</p> <p>地域密着型の保育者養成校として、地域の方々の子育て支援の充実を図り、ますます地域との連携を深めていきたいと思えます。また、2024 年度もリカレント講座を実施し、卒業後の段階に応じたプログラムの策定、さらに本学卒業生だけでなく、地域の保育者に開くことで、地域の保育の質向上にも貢献できればと思えます。</p>	<p>6. ICT 環境の充実と施設整備</p> <p>築47年を経過した1号館に対しては、必要な補修をしつつ、時代に合わせた今後の改修や設備の充実の計画を立て、特に2024 年度は、バリアフリーの観点から、エレベーターの設置を考えています。また、ICT 環境についても、ハード・ソフトの両面から、十分に情報を生かすことのできる環境を整えて参ります。</p>

1. 学校法人和泉短期大学

「2024年度事業計画」

理事長 須田 拓

和泉短期大学は68年目を迎えますが、保育志望者が激減し、他の保育者養成校同様、大変厳しい状況の中に置かれています。しかし、保育者・福祉従事者は社会において重要な役割を担っており、本学は、なお主なる神から大きな使命を与えられていると確信しています。学生募集に力を注ぎ、そして折角入学した学生が離学せずに目標を達成することができるようさらに支援を強化すると共に、これからの時代に必要とされる保育者像を探求し、常に時代に先駆けた取り組みを心がけて参りたく思います。そのために、2024年度は以下の6つの柱を掲げます。

1. 建学の精神の深化

和泉短期大学は、「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を建学の精神として掲げ、「愛と奉仕」をスクールモットーとしています。本学の歩みは、その創設以来、常にキリスト教信仰から生み出されて参りました。そして、子ども一人一人を神から愛されている一人一人として受け取ることなしに、本当の保育は成り立ちません。

本学のこれからの方向性を打ち出さなければならない大切な時期であるからこそ、その原点に立ち返り、そこにしっかりと立脚することが必要です。

これまでも本学は、日頃からチャペルアワーを大切にし、聖書の御言葉に聴くことを大切にして参りました。教職員も、チャペルアワーに学生と共に出席すると同時に、毎年の歩みを、全教職員が参加する新年礼拝をもって、主なる神を仰ぐことから始めて参りましたが、この意識をさらに深く共有するよう、本年度は、本学がキリスト教学校であるとはどういうことか、またキリスト教信仰とは何か、教職員全体で確認する研修の時を持ちたいと願っています。

2. 将来構想の策定と実行

2022年度より、年3回将来構想会議を全学的に開催し、理事会とも連携して、和泉短期大学のこれからのあるべき姿を模索しています。

その会議で出された意見を基に、さらに質の高い保育者を養成するため、これからの新しい保育者のあり方を示す「こども支援ソーシャルワーカー」及び「ヒューマンソーシャルワーカー」の和泉独自資格を2023年度より創設いたしました。また、専攻科介護福祉専攻を、2024年度よりヒューマンケア専攻としてリニューアルし、高齢者介護の従事者だけでなく、例えば障がいについて深く理解する質の高い保育者の育成や、子どもから高齢者まで人間をトータルに理解する児童福祉従事者の育成をも目指すことになりました。これらの新しい取り組みを軌道に乗せつつ、さらにこれからの時代に必要な保育者・福祉従事者像を示して行きたいと願っています。

他方、保育志望者が激減している中で、本学の使命を果たし、より良い社会を実現させて行くためにも、保育の魅力を発信し、保育志望者を生み出し掘り起こすことにも力を注がなければなりません。高校生への働きかけと共に、小学生・中学生にも保育の魅力を伝えるための施策を進めて行きたいと思っておりますし、地域や行政との連携を図りつつ、さらに幅広い年齢層にもアプローチしたいと願っています。また、本学の教育がさらにどのような可能性を持っているのか、特に、必ずしも資格取得を目指すのではない方々が本学で子どもについて深く学ぶことにより、子どもの成長を支援する社会の実現に寄与できないかなどを検討し、学生募集にも生かして行きたいと思っております。

3. 地域連携・リカレント教育の推進

地域密着型の保育者養成校として、「はっぴい」や「すまいりい」を通じた地域の方々の子育て支援の充実を図ると共に、近隣の高校との教育交流に関する協定締結を推進するなど、ますます地域との連携を深めて行きたいと思えます。

保育者は、常に新しい状況への対応を求められます。本学は、卒業後も、生涯にわたって良き保育者として歩み続けることができるよう、その支援をいたたく願っています。また、その教育を地域に開放することで、地域の保育・福祉の向上にも寄与いたたく願っています。2023年度は、喀痰吸引等研修を実施して6名が受講され、また8月にリカレント講座（現任研修・公開講座）を実施し多くの参加者を得ました。本年度もリカレント講座を実施すると共に、さらに、卒業後の段階に応じた、必要な知識やスキルを身に付けるためのプログラムを策定して行きたく思えます。これらの講座を本学卒業生だけでなく、地域の保育者に開くことで、地域の保育の質向上にも貢献できればと思えます。

4. 新中期計画の策定

2024年度は、第二次中期計画（2020年度～2024年度）の最終年にあたります。中期計画の達成状況を振り返ると共に、将来構想を踏まえ、これからの本学の方向性を明らかにする第三次中期計画を本年度の早い時期に策定いたしたく思えます。

5. 私立学校法改正への対応、コンプライアンスの強化

2025年度より新私立学校法が施行されるなど、学校法人のあり方の改革が求められています。本学としても、新私立学校法に対応するために必要な寄附行為等の改正を行うと共に、ガバナンスをさらに強化し、ますます社会から信頼される学校であることができるよう、努めて参りたく思えます。

6. ICT環境の充実と施設整備

本学1号館は築47年を経過しました。必要な補修をしつつ、時代に合わせた今後の改修や設備の充実の計画を立てて行きたく思えます。特に2024年度は、バリアフリーの観点から、エレベーターの設置を考えたく願っています。

また、ICT環境についても、ハード・ソフトの両面から、教育においても、事務においても、十分に情報を生かすことのできる環境を整えて参ります。

法人事業計画

○理事会

第1回	2024年	5月	24日(金)	理事会(決算)	於：和泉短期大学
第2回	2024年	6月	22日(土)	理事会(理事改選、理事長選出)	於：和泉短期大学
第3回	2024年	10月	18日(金)	理事会(予算骨子)	於：和泉短期大学
第4回	2025年	1月	25日(土)	理事会	於：和泉短期大学
第5回	2025年	3月	22日(土)	理事会(予算)	於：和泉短期大学

○評議員会

第1回	2024年	5月	24日(金)	評議員会(決算)	於：和泉短期大学
第2回	2024年	6月	22日(土)	評議員会(改選、監事承認)	於：和泉短期大学
第3回	2024年	10月	18日(金)	評議員会(予算骨子)	於：和泉短期大学
第4回	2025年	3月	22日(土)	評議員会(予算)	於：和泉短期大学

○学内運営協議会

- ▶ 出席者(9名)：理事長、学長、副学長、チャプレン、教務部長、事務局長、学生部長、事務局次長2名

2024年	4月	8日(月)	4月	15日(月)	4月	22日(月)	5月	6日(月)	
	5月	13日(月)	5月	20日(月)	5月	27日(月)	6月	3日(月)	
	6月	10日(月)	6月	17日(月)	6月	24日(月)	7月	1日(月)	
	7月	8日(月)	7月	15日(月)	7月	22日(月)	7月	29日(月)	
	8月	26日(月)	9月	2日(月)	9月	9日(月)	9月	23日(月)	
	9月	30日(月)	10月	7日(月)	10月	14日(月)	10月	21日(月)	
	10月	28日(月)	11月	4日(月)	11月	11日(月)	11月	18日(月)	
	11月	25日(月)	12月	2日(月)	12月	9日(月)	12月	16日(月)	
	12月	23日(月)							
	2025年	1月	20日(月)	1月	27日(月)	2月	3日(月)	2月	10日(月)
		2月	17日(月)	3月	3日(月)	3月	10日(月)	3月	17日(月)
		(全41回)							

○法人行事

2024年	4月	8日(月)	イースター礼拝
	5月	13日(月)	創立記念礼拝
	5月	20日(月)	ペンテコステ礼拝
	10月	21日(月)	召天者記念礼拝
	10月	28日(月)	宗教改革記念礼拝
	12月	2日(月)	アドベント礼拝
	12月	7日(土)	クリスマス・コンサート
	12月	9日(月)	アドベント礼拝
2025年	12月	16日(月)	クリスマス礼拝
	1月	6日(月)	教職員新年礼拝、教職員修養会
	2月	28日(金)	和泉スプリングコンサート
	3月	10日(月)	卒業・修了感謝礼拝

2. 和泉短期大学

「2024年度事業計画」

学長 佐藤 守 男

2020年より新型コロナウイルス感染症が広がって、今年で5年目を迎えます。そして昨年5月に2類から5類に移行してから、以前の生活に戻りつつあります。

ところで、少子高齢化や18歳人口の減少が進むにつれて、保育者や福祉従事者の社会においての役割は、ますます重要になってきています。しかし、保育や幼児教育、福祉を学ぶ志願者は激減し、全国の保育者養成校は大変厳しい状況に置かれています。

本学は2022年度より須田理事長の下、年3回「将来構想会議」を開催し、教授会、評議員会、理事会とも連携して、和泉のこれからのあるべき姿を探ってきました。そして、和泉が、建学以来培ってきた保育や幼児教育、福祉の知識や技術を教育や地域社会に生かし、地域に必要とされる短期大学となるよう検討してきました。

その結果、2024年度の事業計画は、以下の6項目としました。

1. キリスト教信仰に基づく人格教育の強化
2. 将来構想の策定と実行
3. リカレント教育の推進
4. 入試改革と離学者対策
5. 給付型奨学金の再検討
6. ICT教育の充実と施設設備

1. キリスト教信仰に基づく人格教育の強化

学校法人和泉短期大学はキリスト教信仰によって建てられたキリスト教学校であります。「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を建学の精神とし、「愛と奉仕」をスクールモットーとしてきました。

本学の使命は、神が集めた和泉で学ぶ者に幅広い教養と保育者、福祉従事者としての専門的な知識・技術を修得させ、キリストに倣う人格教育を行うことにあります。そのためには、キリスト教学校の土台となる「礼拝」をより豊かなものとし、「キリスト教関係の科目」を建学の精神を支える重要科目として、教育の核となるようにすることです。

特に本学は、日頃から「礼拝」を大切にし、聖書の御言葉を大切にしてきました。教職員も学生と共に「礼拝」に出席し、また、全教職員が参加する新年礼拝をもって毎年の歩みを始めて参りました。今年度は、この意識をさらに深く共有し、「本学がキリスト教学校であるとはどういうことか」また「キリスト教信仰とは何か」というテーマを持って、全教職員で研修の時を持ちたいと思っています。

2. 将来構想の策定と実行

2022年度より、理事長の下、全教職員で自由に発言できる「将来構想会議」を年3回開催し、理事会とも連携しながら、和泉短期大学のこれからのあるべき姿について模索してきました。

そして、その会議で出された意見を基に、本学は、建学以来大切にしてきた「子どもに寄り添う支援」と「子どもを取り巻く家庭や地域への支援」に改めて焦点をあて、2023年度より和泉独自の認定資格として「こども支援ソーシャルワーカー」を創設しました。また、専攻科介護福祉専攻におきましても、2024年度よりリニューアルして、名称を「専攻科ヒューマンケア専攻」としました。そして、児童福祉学科での福祉・保育の学びを基に乳幼児から高齢者まで人間をトータルにケアできる専門職の養成へとバージョンアップし、介護福祉士国家試験受験資格に加え、「知的障害者ガイドヘルパー資格」と「ヒューマンソーシャルワーカー資格（認定資格）」を取得できるようにしました。今年度はこれらの新しい取り組みを軌道に乗せつつ、さらにこれからの時代に必要な保育者、福祉従事者を育成したいと思っています。

3. 地域連携とリカレント教育の推進

コロナ禍がだいぶ落ち着いてきましたので、本学は地域密着型の保育者養成校として、「はっぴい」や「すまいいい」を通しての子育て支援を充実させ、児童福祉研究室主催の子育てに関する講演などを実施し、ますます地域との連携を深めてまいりたいと思います。

また、本学は、卒業後も、生涯にわたって良き保育者として歩み続けることができるよう、卒業後の段階に応じた、必要な知識やスキルを身に付けるためのプログラムを策定し、リカレント講座を実施する予定です。

2023年度は、「喀痰吸引等研修」を実施して6名が受講され、また8月に「リカレント講座（現任研修・公開講座）」を実施し多くの参加者を得ました。これらの講座を本学卒業生だけでなく、地域の保育者にも参加していただき、地域の保育の質向上にも貢献したいと思っています。

4. 入試改革と離学者対策

本学は2022年度から入学定員250名から200名に変更しましたが、昨年度に続き、今年度も入学定員には達しませんでした。しかし、これは本学だけではなく近隣の大学はもっと低い充足率となっており、本学としての成果はあったと思っています。また、これからは高大の関係を密にするだけでなく、幼、小、中学校にも保育者の魅力を伝える機会を持てるよう、検討したいと思っています。

また、離学者防止対策ではありますが、本学の離学者は徐々に減っていますが、それでも全国平均3.3%を超えています。ここ数年の本学の主な離学の理由は、「保育者志望のミスマッチ」や「学力不足」であると報告を受けていますが、深刻な「経済的困窮」という理由もいまだに多いと聞いています。

5. 給付型奨学金の再検討

本学には、日本学生支援機構奨学金の他に、本学独自の給付型奨学金が12種類あると聞いています。しかし、残念ながら、ほとんどの奨学金は、成績優秀者という制限がついています。経済事情等で就学困難な学生は、本来の学習する時間をアルバイト等の時間に費やし、成績上位者に名を連ねることができないのがほとんどです。

そこで経済的支援の人数をもう少し増やしてほしいという要望や、給付型奨学金の対象にならない経済的に厳しい学生が多くいるという報告も聞いていますので、ここで一度、実情を調査し、学生たちにとってよい奨学金の給付を検討したいと思っています。

6. ICT 教育の充実と施設設備

世田谷より相模原に移転して 47 年が経過しましたので、校舎は老朽化していますが、必要な補修をしつつ、計画を立てて改修や設備の充実をしていきたいと思っています。特に 2024 年度は、バリアフリーの観点から、エレベーターの設置を考えています。また、ICT 環境についても、ハードやソフトの両面、そして、教育や事務においても、十分に情報を生かすことのできる環境を整えたいと思います。

以上の 6 項目です。この事業計画につきましては、学内運営協議会や教授会で討論し、職員の意見も聴いた上で、理事会、評議員会に提案し、和泉短期大学が一体となって行いたいと思っています。本学を一層、魅力ある短期大学にして参りたいと思います。

(1) 学事予定

2024年	4月	1日(月)	入学式
		2日(火)	1年前期オリエンテーション 2年前期始業礼拝、前期オリエンテーション、グループミーティング 専攻科前期オリエンテーション、教科書販売
		3日(水)	1年教科書販売、健康診断 2年前期オリエンテーション、アセスメントテスト① 専攻科健康診断、前期授業開始 教職員健康診断
		4日(木)	2年教科書販売、健康診断
		5日(金)	1年新入生研修会、アセスメントテスト①、レポートの書き方講座
		8日(月)	イースター礼拝 1年、2年前期授業開始
		12日(金)	ナイトオープンキャンパス①
		20日(土)	スポーツ大会
		27日(土)	オープンキャンパス①、はっぴい①
5月		6日(月)	月曜日分授業日
		7日(火)	2024年度第1回創立記念フェア
		8日(水)	高校教員対象進学説明会①
		9日(木)	高校教員対象進学説明会②
		11日(土)	はっぴい②
		13日(月)	創立記念礼拝、サークル勧誘デー
		15日(水)	創立記念日 実習指導連絡会(幼稚園)
		20日(月)	ペンテコステ礼拝
		26日(日)	オープンキャンパス②、はっぴい③
6月		3日(月)	1年避難・防災訓練、感謝の祈り、インターンシップ①幼稚園(保育体験)行先別事前授業 2年実習(幼稚園)〈6月21日(金)まで〉 専攻科介護実習Ⅰ〈6月10日(月)まで〉
		7日(金)	ナイトオープンキャンパス②
		11日(火)	専攻科実習Ⅰ予備日
		15日(土)	オープンキャンパス③、はっぴい④
		17日(月)	1年児童福祉施設紹介、インターンシップ②保育園、インターンシップ③施設の説明
		24日(月)	1年インターンシップ①幼稚園(保育体験)(全教員) 2年実習予備日
7月		2日(火)	2024年度第2回サマーフェア
		3日(水)	かながわ高齢者福祉研究大会
		6日(土)	オープンキャンパス④、はっぴい⑤
		15日(月)	月曜日分授業日、1年前期授業終了
		16日(火)	1年前期定期試験① こども支援ソーシャルワーカー集中講座〈7月17日(水)まで〉
		17日(水)	1年前期定期試験②
		18日(木)	1年前期定期試験③
		19日(金)	1年前期定期試験④、専攻科前期授業終了
		20日(土)	1年前期定期試験⑤、専攻科定期試験①
		21日(日)	オープンキャンパス⑤、はっぴい⑥
		22日(月)	1年夏期休業開始〈8月25日(日)まで〉 専攻科前期定期試験②

7月	23日(火)	専攻科前期定期試験③
	24日(水)	専攻科介護実習Ⅰ(訪問介護)〈8月3日(土)まで〉
8月	1日(木)	保育福祉系の授業研究会
	2日(金)	1年、専攻科成績報告書締切日
	3日(土)	オープンキャンパス⑥、はっぴい⑦
	5日(月)	2年前期授業終了 専攻科夏期休業開始〈8月25日(日)まで〉
	6日(火)	2年前期定期試験①
	7日(水)	2年前期定期試験②
	8日(木)	2年前期定期試験③
	9日(金)	2年前期定期試験④
	10日(土)	2年前期定期試験⑤
	12日(月)	2年夏期休業開始
	19日(月)	南相馬スタディーツアー〈8月21日(水)まで〉
	23日(金)	2年成績報告書締切日 おもちゃインストラクター養成講座
	24日(土)	オープンキャンパス⑦、はっぴい⑧
	25日(日)	1年、専攻科夏期休業終了
	26日(月)	1年、専攻科後期始業礼拝、グループミーティング、オリエンテーション、前期再試験発表 1年アセスメントテスト② 専攻科ⅰ日程①、医療的ケアⅡ集中講義
	28日(水)	2年実習授業、普通救命講習Ⅲ(幼児・乳児・新生児) 専攻科医療的ケアⅡ集中講義
	29日(木)	1年前期再試験〈8月30日(金)まで〉 専攻科前期再試験〈8月30日(金)まで〉 専攻科医療的ケアⅡ集中講義〈8月30日(金)まで〉
	31日(土)	現任研修&公開講座
9月	2日(月)	2年保育実習Ⅱ(保育所・施設)〈9月18日(水)まで〉 専攻科後期授業開始
	7日(土)	総合型選抜Ⅰ期①
	11日(水)	相模原市内高校長との教育研究会
	13日(金)	1年後期授業開始
	14日(土)	総合型選抜Ⅰ期②、はっぴい⑨
	19日(木)	2年実習予備日
	20日(金)	ナイトオープンキャンパス③
	21日(土)	2年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、前期再試験発表、アセスメントテスト②
	23日(月)	1年、専攻科月曜日分授業日 1年インターンシップ②保育園(ふれ合い体験)③福祉施設 振り返り
	24日(火)	2年前期再試験〈9月25日(水)まで〉
	25日(水)	専攻科実習連絡会
	27日(金)	2年後期授業開始
	28日(土)	総合型選抜Ⅱ期①
10月	8日(火)	2024年度第3回サンクスギビングフェア
	9日(水)	総合型選抜Ⅱ期ナイト
	12日(土)	総合型選抜Ⅱ期②、専攻科ⅰ日程② はっぴい⑩
	14日(月)	月曜日分授業日
	18日(金)	ナイトオープンキャンパス④
	21日(月)	召天者記念礼拝
	25日(金)	実習報告会、いずみ祭準備

	10月	26日 (土)	いずみ祭 (ホームカミングデイ、保証人会)
		28日 (月)	宗教改革記念礼拝 専攻科介護実習Ⅱ (11月23日 (土) まで)
		30日 (水)	総合型選抜Ⅲ期ナイト
	11月	2日 (土)	総合型選抜Ⅲ期①
		8日 (金)	専攻科帰校日
		9日 (土)	はっぴい⑩
		13日 (水)	実習指導連絡会 (保育所・施設)
		23日 (土)	学校推薦型選抜[指定校Ⅰ期、公募、専門、キリスト者・キリスト教学校]
		25日 (月)	専攻科実習予備日
		26日 (火)	専攻科介護協学力評価テスト
		30日 (土)	総合型選抜Ⅲ期②、社会人特別選抜Ⅰ期、専攻科A日程
	12月	2日 (月)	アドベント礼拝
		7日 (土)	入学前教育① 学校推薦型選抜 (指定校Ⅱ期) はっぴい⑫、はっぴいクリスマスコンサート
		9日 (月)	アドベント礼拝
		10日 (火)	2024年度第4回クリスマスフェア
		14日 (土)	総合型選抜Ⅳ期
		16日 (月)	クリスマス礼拝、1年後期授業終了
		17日 (火)	1年後期定期試験①
		18日 (水)	1年後期定期試験② 2年、専攻科後期授業中断、冬期休業開始 (2年：2025年1月7日 (火) まで、専攻科：2025年1月4日 (土) まで)
		19日 (木)	1年後期定期試験③
		20日 (金)	1年後期定期試験④
2025年	1月	4日 (土)	専攻科冬期休業終了
		6日 (月)	教職員新年礼拝、教職員修養会、専攻科学内テスト
		7日 (火)	1年、2年冬期休業終了
		8日 (水)	1年実習授業 2年、専攻科後期授業再開
		9日 (木)	1年後期定期試験⑤
		11日 (土)	はっぴい⑬
		13日 (月)	専攻科月曜日分授業日
		14日 (火)	1年保育実習Ⅰ (保育所・施設) (1月29日 (水) まで)
		18日 (土)	入学前教育②、総合型選抜Ⅴ期①、専攻科B日程
		21日 (火)	2年後期授業終了
		22日 (水)	2年後期定期試験① 専攻科国家試験対策講座 (24日 (金) まで)
		23日 (木)	2年後期定期試験②
		24日 (金)	1年成績報告書締切日、2年後期定期試験③
		25日 (土)	2年後期定期試験④
		27日 (月)	2年後期定期試験⑤ 専攻科後期授業終了
		29日 (水)	専攻科事例発表会
		30日 (木)	1年実習予備日、2年追再実習 (2月20日 (木) まで) 専攻科後期定期試験①
		31日 (金)	専攻科後期定期試験②
	2月	3日 (月)	1年実習授業、後期再試験発表 専攻科後期定期試験③ FD・SD研修会
		4日 (火)	2年成績報告書締切日、専攻科後期定期試験④

2月	5日(水)	1年実習授業、専攻科後期定期試験⑤
	6日(木)	1年後期再試験〈2月7日(金)まで〉
	8日(土)	総合型選抜Ⅴ期②、専攻科C日程、オープンキャンパス⑧ はっぴい⑭
	10日(月)	専攻科成績報告書締切日
	12日(水)	1年保育実習Ⅰ(施設・保育所)〈2月28日(金)まで〉 入学前教育③
	14日(金)	2年、専攻科後期再試験発表
	15日(土)	一般選抜、社会人特別選抜Ⅱ期
	17日(月)	2年、専攻科後期再試験〈2月18日(火)まで〉
	21日(金)	2年実習予備日
	25日(火)	2年追再実習者再試験
	26日(水)	2025年度全教員打合せ会
	28日(金)	和泉スプリングコンサート
3月	1日(土)	総合型選抜Ⅴ期③、専攻科D日程、オープンキャンパス⑨ はっぴい⑮
	3日(月)	1年実習授業、実習予備日
	5日(水)	入学前教育④、FD・SD研修会
	6日(木)	おもちゃインストラクター養成講座
	10日(月)	2年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科修了感謝礼拝、修了証書授与式予行練習
	11日(火)	2年卒業証書・学位記授与式、専攻科修了証書授与式
	29日(土)	オープンキャンパス⑩

(2) 実習

2024年	6月	3日(月)	～6月21日(金)	2年幼稚園
	6月	3日(月)	～6月10日(月)	専攻科介護実習Ⅰ
	7月	24日(水)	～8月3日(土)	専攻科介護実習Ⅰ(訪問介護)
	9月	2日(月)	～9月18日(水)	2年保育実習Ⅱ(保育所・施設)
	10月	28日(月)	～11月23日(土)	専攻科介護実習Ⅱ
2025年	1月	14日(火)	～1月29日(水)	1年保育実習Ⅰ(保育所・施設)
	1月	30日(木)	～2月20日(木)	2年追再実習
	2月	12日(水)	～2月28日(金)	1年保育実習Ⅰ(施設・保育所)

児童福祉学科 入試日程

入試区分	面談日 (選考日)	(予約)期間 旧エントリー	出願許可 判定 教授会	出願 許可	出願期間	合格 発表日	判定 教授会	入学手続 期間
総合型選抜 Ⅰ期①	9/7(土)	8/22(木)～ 9/4(水)	9/9(月)	9/10(火)	9/20(金)～ 9/27(金)	11/1(金)	10/23(水)	11/5(火)～ 11/19(火)
総合型選抜 Ⅰ期② 愛の泉スカラシッ プ入試を含む	9/14(土)	9/5(木)～ 9/11(水)	9/18(水)	9/19(木)				
総合型選抜 Ⅱ期①	9/28(土)	9/19(木)～ 9/25(水)	9/30(月)	10/1(火)	10/2(水)～ 10/9(水)	11/4(月) 〔追認〕		
総合型選抜 Ⅱ期ナイト	10/9(水)	9/27(金)～ 10/4(金)	10/14(月)	10/15(火)	10/16(水)～ 10/23(水)			
総合型選抜 Ⅱ期②	10/12(土)	10/3(木)～ 10/9(水)						
総合型選抜 Ⅲ期ナイト	10/30(水)	10/18(金)～ 10/25(金)	11/4(月)	11/5(火)	11/6(水)～ 11/13(水)	11/20(水)	11/27(水) 〔追認〕	11/21(木)～ 12/8(木)
総合型選抜 Ⅲ期①	11/2(土)	10/24(木)～ 10/30(水)						
学校推薦型選抜 指定校推薦Ⅰ期	11/23 (祝・土)	—			11/1(金)～ 11/11(月)	12/1(日)	11/27(水)	12/2(月)～ 12/16(月)
学校推薦型選抜 キリスト者・キリ スト教学校推薦								
学校推薦型選抜 公募推薦 専門高校推薦								
総合型選抜 Ⅲ期②	11/30(土)	11/21(木)～ 11/27(水)	12/2(月)	12/3(火)	12/4(水)～ 12/11(水)	12/18(水)	1/22(水) 〔追認〕	12/19(木)～ 1/9(木)
社会人特別選抜 Ⅰ期	11/30(土)				11/21(木)～ 11/27(水)	12/4(水)	12/2(月)	12/5(木)～ 12/19(木)
学校推薦型選抜 指定校推薦Ⅱ期	12/7(土)	—			11/21(木)～ 12/4(水)	12/11(水)	12/9(月)	12/12(木)～ 12/24(木)
総合型選抜Ⅳ期	12/14(土)	12/5(木)～ 12/11(水)	12/18(水)	12/19(木)	12/20(金)～ 2025/1/8(水)	1/10(金)	2/12(水) 〔追認〕	1/14(火)～ 1/21(火)
総合型選抜Ⅴ期	1/18(土)	1/9(木)～ 1/15(水)	1/20(月)	1/21(火)	2025/1/22(水)～ 1/29(水)	1/31(金)	2/12(水) 〔追認〕	2/3(月)～ 2/10(月)
総合型選抜Ⅴ期②	2/8(土)	1/30(木)～ 2/5(水)	2/10(月)	2/11 (祝・火)	2025/2/13(木)～ 2/19(水)	2/21(金)	3/12(水) 〔追認〕	2/25(火)～ 3/4(火)
一般選抜	2/15(土)	—			2025/2/5(水)～ 2/12(水)	2/18(火)	2/17(月)	2/19(水)～ 2/26(水)
社会人特別選抜 Ⅱ期								
総合型選抜Ⅴ期③	3/1(土)	2/20(木)～ 2/26(水)	3/3(月)	3/4(火)	2025/3/5(水)～ 3/7(金)	3/11(火)	4/1(火) 〔追認〕	3/12(水)～ 3/14(金)

神奈川県委託訓練生 専門人材育成コース (保育士)

ハローワーク、神奈川県立東部総合職業技術校、人材育成支援 センター 各地区のハローワーク扱い	募集期間
	2025年2月末、 3月中旬(予定)

3. 専攻科ヒューマンケア専攻

1. 「ヒューマンケア専攻」2つの資格取得のための新たな取り組み
 - (1) ガイドヘルパー（知的障がい）資格
 - (2) ヒューマンソーシャルワーカー資格（認定資格）
2. 介護福祉士国家試験対策に強い教育体制の構築
 - ① 授業内での小テストの施行（前期～後期）
 - ② 介養協学力評価テスト（12月）
 - ③ 国家試験対策学内テスト（1月）
 - ④ 学内国家試験対策（3日間）
 - ⑤ 夏休み・冬休み課題と冬休みの補習
 - ⑥ 学力評価テストや国家試験対策学内テストの結果を学生に視覚化し指導
3. 実習の充実
 - (1) 施設見学実習の実施
 - (2) 学生個々に応じた実習指導の充実
 - (3) 実習巡回指導の充実
 - (4) 事例研究の指導・事例集作成
 - (5) 事例研究発表会の開催（1月）
 - (6) 専攻科教育実習連絡会の開催（9月）
4. 広報委員会と連携し、専攻科の周知と入学者安定を図る
 - (1) 高大連携授業での周知・積極的な中・高校への出前授業の受け入れ
 - (2) 高校教員進学説明会・学校長との懇談会での専攻科の周知
 - (3) オープンキャンパスでの高校生への周知
 - (4) 書面や保証人会での保証人への周知
 - (5) ホームページやSNSを通じた専攻科の周知
 - (6) 指定校への案内状送付
 - (7) 専攻科学内広報
 - ① 2月 1年生施設実習後の進路アンケート実施
 - ② 4月 アドバイザーによる専攻科のアナウンス
 - ③ 5月 進路アンケート実施
 - ④ 7月～10月 専攻科説明会の実施
 - ⑤ 9月 後期開始オリエンテーションでのアナウンス
5. 就業力支援
 - (1) かながわ高齢者福祉研究大会への参加
 - (2) 専攻科修了生による職場体験の発表
 - (3) 特別講義の実施
6. 地域貢献活動
 - (1) 相模原市高齢者福祉協議会主催の研修の講師とし、介護職員のスキルアップ支援
 - (2) 相模原市高齢者福祉協議会と共同し、介護福祉士資格取得のための支援
 - (3) 青葉2丁目の町内会高齢者の方との世代間交流
 - (4) 相模原市主催の市民大学の講師として参加し、地域貢献を図る
7. 共同研究の検討

4. キリスト教活動

1. 概要

建学の精神「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」に基づくキリスト教活動が教育の柱であることを、学生・教職員に働きかける。学生一人ひとりが聖書の教えを深く理解し、本学での学びを経て、神を畏れ敬う心と、隣人に仕える人格を有する保育・福祉実践者となることを目的として下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、チャプレン、宗教部長、教授会構成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。

3. 活動内容

3-1 年間聖句

本学を導いてくださる神様からの御言葉として下記の年間聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載するほか、さまざまな場面で掲げ、学生及び教職員が常に心に留めて歩むようにする。

2024年度年間聖句「主よ、お話をください。僕は聞いております。」

(サムエル記上第3章9節)

3-2 始業礼拝

神様によって、学びと学生生活がすべて守られるように、前期・後期の始業時に礼拝をおささげる。

3-3 チャペルアワー

一週間の学び始めの月曜日に、キリスト教活動の中心として、毎週月曜日2時限にチャペルアワーをおささげる。聖書の御言葉に聴き、説教者・奨励者を通して語られる神様からのメッセージを聴き、賛美と感謝と祈りを通し、一人ひとりが建学の精神の具現化、スクールモットー「愛と奉仕」の実践者とされていくことを目指す。

年間を通じて、より多くの学生の出席を求めていくため、いくつかの授業とも連携していく。

3-4 特別礼拝（下記の特別礼拝をおささげる。）

- 1) イースター礼拝（4月8日）
- 2) 創立記念礼拝（5月13日）
- 3) ペンテコステ礼拝（5月20日）
- 4) 召天者記念礼拝（10月21日）
- 5) 宗教改革記念礼拝（10月28日）
- 6) アドベント礼拝（12月2日・9日）
- 7) クリスマス礼拝（12月16日）
- 8) 卒業・修了感謝礼拝（3月10日）

3-5 新入生研修会

4月5日に新入生研修会を実施する。講演会（賛美とメッセージ）、及び宗教部オリエンテーションを通して、今後の学びの礎を培う。

3-6 クリスマスコンサート（子育て支援プログラム「はっぴい」と共催）

12月7日に子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

3-7 和泉短大スプリングコンサート

2月28日に地域住民を対象としたキリスト教音楽に関するコンサートを計画し実施する。

3-8 献金

チャペルアワーごとに、神様への感謝を表すために献金をおささげする。この献金は、神様への献身のしるしであることを認識したうえで、チャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーシッププログラムへの参画と全国の児童福祉施設などへの支援に用いる。

3-9 和泉クリスチャン・フェローシップ（I.C.F.）

学生たちがキリストの教えに親しむことを目的として集う和泉クリスチャン・フェローシップの活動を適宜行う。

3-10 学生聖歌隊

賛美歌、子ども賛美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともにキリスト教音楽に親しみ、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕のための練習を中心に活動する。チャペルアワー、特別礼拝、学内諸行事にて賛美奉仕する。

3-11 ハンドベルクワイア

選択科目である「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」「ハンドベルⅢ」「ハンドベルⅣ」と連携し、科目担当者・履修学生によって、クリスマス礼拝などで賛美奉仕する。

3-12 教会紹介

掲示などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」、「キリスト教倫理」、「キリスト教社会倫理」の授業と連携する。

3-13 『教えとともに チャペルメッセージ集 4』の刊行

チャペルアワーで語られた説教・奨励の要旨を収録したチャペルメッセージ集を刊行する。今後も隔年刊行を目指したい。

3-14 建学の精神を伝える映像資料の制作

和泉短期大学創立の経緯、創立者の信仰と働き、和泉短期大学の歩みなどを内容とする映像資料の作成を、入試広報委員会等と連携して進める。

4. 2024年度の重点課題

4-1 「チャペルアワーを中心に捉えたキリスト教活動」

- ・「学生に、今届く言葉を伝えるチャペルアワー」とするため、説教者・奨励者には、その旨を予め伝えて依頼する。
- ・教職員に学生の中に入ってもらい、誠実に礼拝をおささげしている姿を学生に見せる。
- ・これまで同様、授業との連動を図りつつも、授業の課題と絡まないチャペルアワーへの主体的出席＝「チャペルアワーは出席するもの」という雰囲気を一層醸成する。
- ・一部の学年だけでも、授業がある時は（動画配信も含め）チャペルアワーをおささげする。

4-2 「建学の精神を支えるキリスト教信仰への理解を深められる活動を展開する」

- ・建学の精神に基づくキリスト教活動が教育の柱であることを、学生・教職員に伝え働きかける。
- ・教職員が建学の精神への理解を深めることができるよう教職員修養会を開催する。
- ・キリスト教学校教育同盟の学内教職員研修会講師派遣制度を利用し、SD・FD研修会を開催する。

4-3 「キリスト教活動への学生の主体的参画の機運を醸成する」

- ・学生のチャペル委員の担当役割を引き続き明確化するとともに、チャペルアワーの受付のみならず、個々に得意なことを生かして能動的に携われるよう促していく。
- ・I.C.F（和泉クリスチャンフェローシップ）などの活動を充実させ、その中からキリスト教活動への学生の主体的参画の具体を模索していく。キリスト教活動が教育の柱であるとの認識を全学で共有する。

5. 研究活動

佐藤守男 学長

【研究課題】

1. 彫刻等の表現（形・素材）の可能性について
2. 日本や欧米の美術館・画廊の調査研究

【教育課題】

1. 造形表現の教材研究

【学会参加予定】

個展、グループ展、日本美術家連盟、日本臨床死生学会 他

大下聖治 教授

【研究課題】

1. 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム(継続)
2. 運動技術の方法的運動系列に関する検討(継続)
3. 指導技術(コーチング)の習得に関する研究(継続)
4. 身体運動・表現遊びと安全対策に関する研究(継続)

【教育課題】

1. 乳幼児期の発達に効果的な運動・遊び・環境構築について、学生個々が理解を深め、基本的な援助技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
2. 保育・福祉の現場で必要となる体力的要素の養成とサポート
3. 子どもの「身体運動遊び」及び「身体表現遊び」に積極的に関わり、環境の構築と工夫ができる保育者の育成
4. 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーの養成

【学会参加予定】

1. 日本体育・スポーツ・健康学会
2. 日本体力医学会
3. 日本保育学会

【社会的活動】

1. 座間市子ども・子育て会議 会長
子ども・子育て支援法に規定する子ども・子育て支援事業計画の策定等に関し、市長の諮問に応じて調査審議を行う。
2. 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会苦情解決第三者委員
苦情に対する社会性や客観性を持った「第三者委員」として、公正・中立で一定のルールに沿った苦情解決ができるように調整。
3. 座間市未来プラン懇話会委員
座間市総合戦略で掲げる重要業績評価指標の進捗状況の検証及びその評価等を行う。

武石宣子 特任教授

【研究課題】

1. リトミック教育(リズム運動・ソルフェージュ・即興演奏・プラスチック・アニメを含む)

に関する研究

2. プラスティック・アニメの研究

(子どもの歌を題材、小道具<フープ・ゴム・スカーフ等々>を用いて)

3. 子どもの歌の簡易伴奏法の研究

(レベルに合わせたアレンジ法、前奏後奏の工夫)

4. リトミックに関する教材研究

5. 障がい者・児のためのリトミックの研究 (障がい者・児のための音楽療法)

6. 動きの為の即興：声・身体・楽器を用いての誰でも簡単にできる工夫

(グリッサンド・2音列・ドレミファソラシド・全音音階・黒鍵・魔法・びっくり音・イメージ音楽等々)

7. 動きのイメージが広がる音楽環境に関する研究

【教育課題】

1. リトミックの授業内容、授業運営の工夫

2. 親子リトミック (親子ふれあい遊び、子育て支援) の指導方法の充実

【所属学会等】

大学教育学会 日本保育学会 日本音楽教育学会

日本ダルクローズ音楽教育学会 大学音楽教育学会

日本乳幼児教育学会 日本キリスト教社会福祉学会

日本保育者養成教育学会 初年次教育学会

松 浦 浩 樹 教授

【研究活動】

1. 「子どもの遊びの充実と拠点の必要性について」(その3)

継続研究として、テーマ設定の変更：「子どもの遊びの充実と中心性 (拠点) について」(その3) 関連研究として、「子どもの遊びの充実と秩序感の生成過程について」「幼児期の遊びと学びの相関関係—アクティブラーニング時代の幼児教育の意味」

2. 幼児期における両義的認識の発達過程について

3. キリスト教保育の現状と課題

「キリスト教保育指針」キリスト教保育連盟 2023 年度内発行予定：研究委員会委員長

4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究 (～2015 年まで)

5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究 (～随時継続)

6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究 (～2012 年まで)

7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題 (～2015)、保育就業力育成プログラムの現状と課題

8. 「学び」の脱学校化と文化的創造への課題(テーマ「施設化する生」の継続的研究)

9. 「大学講義科目におけるアクティブラーニングの可能性—保育原理・教育原理における実践と省察—」

上記テーマに基づき、協力園 (幼稚園・保育園) での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ 6、7 に関して、学内で関与する学生、保護者 (親子) との実際的なかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

10. 教育目的の潜在性と出会いとしての真実の探求 (キリスト教教育)

11. 保育者養成を軸にした地域連携支援の在り方と保育学生の育ちの探求

【教育課題】

1. 短大における学び・保育者への学びについての態度変容について、新入生に対して「保育原理」・2年生に対して「教育原理」の授業の中で、主にアクティブラーニングを通じて実践していくこと。さらに、今年度は保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに相關させるプログラムの開発と工夫に努力する。
2. 上記の取り組みを通じて、教育・保育の目的論（潜在性と教育的配慮の真実性）を明確に学ばせる。
3. 「保育原理」、「教育原理」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際的なデータ（事例・ビデオ）を収集すると共に、これらを学生に還元し、人間現象を考察する力・人間教育としての保育への理解を促進する。
4. 保育者養成校としての短期大学における学びの協同性の機会を構築し、学年・クラス・グループの枠を超えた対話的学習を促していく。
5. 実務経験を生かした授業内容の構成、特に「保育内容・人間関係」における実践的考察を通じ、自らの生き方、保育者としての生き方を探求する。
6. 地域連携のプログラムを企画するにあたり、学生の主体的参加と大学間学生交流を促進し、社会的マネジメントとコンプライアンスの基盤を学ぶ環境を創造する。

【参加予定学会等】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本キリスト教教育学会
4. 子どもと保育総合研究所・所員研究会
5. OMEP（世界幼児教育機構）日本委員会 国際共同研究
6. キリスト教保育実践研究会
7. キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会
8. キリスト教保育連盟 保育実践研究委員会・委員長
9. 保育教諭養成課程研究会（文科省重点課程研究）
10. 全国保育士養成協議会（平成29年度第56回大会） 実行委員
11. 日本キリスト教教育学会 理事（2022年6月から）
12. 日本キリスト教教育学会第35回学会大会（2023年6月） 準備実行委員・委員長

【地域貢献】

1. キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師
2. 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
3. 相模原市保育士会所属保育園の継続的保育観察と研究指導
4. 学校法人雲柱社松沢幼稚園：評議員
5. 学校法人宮の台幼稚園：理事
6. 学校法人愛育学園愛育養護学校（特別支援学校）：評議員
7. 学校法人椿学園でんえん幼稚園：理事
8. 学校法人相愛学園武蔵野相愛幼稚園：評議員
9. 社会福祉法人御殿場コロニー野菊寮：監事

10. 社会福祉法人相模和泉福祉会和泉保育園：理事

11. 社会福祉法人横浜 YMCA 福祉会：評議員

【その他委員会等】

1. 2024 年度も前年度に引き続き、地域連携推進センター長・図書館長を担う。まずは現行の子育て支援の在り方を抜本的に捉え直し、子どもと母親を支援の中心におきつつ、(被支援ではなく支援者として)小学生から高齢者を巻き込んだ新たな支援活動を工夫することで、子育て支援を軸にした総合的地域連携支援を具現化し、革新的な地域連携・支援を社会に提示することで地域の活性化と本学のアドミSSIONの充実した遂行をしたい。またこれらの活動を通じて、保育のみではなく介護職への関心を学生に促していく。
2. さがまち地域教育連携プラットフォームの一つである「地域交流イベント実行委員会」を本委員会が担う。かねてから案があった「たまご街道」(麻溝畜産会)とのコラボレーションを中心に、他のプラットフォーム大学の協賛を募り、産業界・相模原市役所・商工会議所との連携を図りながら、地域振興に寄与する。
3. 図書館の利用率が低いことは全国的な傾向。オープン・ライブラリーの構想を図り、単に「本を読む・借りる、自習する」空間イメージを超越した学生と地域の開かれた親しい・利用しなくなる空間イメージが定着するような工夫をする。

横 川 剛 毅 教授

【研究課題】

1. 口述筆記による、優れた社会福祉実践家についての研究

【教育課題】

1. より深い配慮が必要な人に寄り添うことができる保育者・支援者の養成
2. 専門性より関係性を旨に、保護者も含め良い関係を築ける保育者・支援者養成

【学会参加予定】

1. 日本キリスト教社会福祉学会
2. 日本オーラルヒストリー学会

松 山 洋 平 教授

【研究課題】

1. 乳幼児期の子どもたちの環境とのかかわりの重要性・可能性を再考する
2. 保育の質をもたらす組織の質、自立型組織の成長モデルの指標構築に関する研究
3. 保育園園長のまなざしの変容に関する研究
4. 保育者の子どもを理解することの深化についての研究

【教育課題】

1. 担当科目「保育内容・環境(指導法)」における、さらなるALの開発と内容の充実。
2. 担当科目との連携による実習教育さらなる充実を目指した取り組み。
3. サークル、自主ゼミ等、授業外学習を行う学生を支える取り組み。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会

3. こども環境学会

【社会的活動】

1. 一般社団法人全国保育士養成協議会理事
2. Will とともに語ろう（和泉短期大学学生・卒業生研修会）
3. 子どもと保育総合研究所所員（研究大会・セミナーなどの企画・運営・講師）
4. 川崎市認可保育所（株）ぶどうの実系列園 要望等解決審査委員（第三者委員）
5. 「公開保育を通して幼児教育・保育の質の向上」講師（神奈川県私立幼稚園連合会 A部会）
6. 保育士等キャリアアップ研修講師（相模原市・横浜市）
7. 中堅研修Ⅰ期「乳幼児理解と指導計画」講師（相模原市）
8. 保育所における自己評価ガイドライン研修講師（横浜市）
9. 預かり保育担当者研修講師（横浜市幼稚園協会）
10. 園評価研修講師（世田谷区）
11. 新幼児教育講座講師（幼少年教育研究所）
12. 足立区ゼミ研修講師
13. 公開保育研修講師（大田区立保育園）
14. 社会福祉法人鉄道弘済会研修会講師

山本美貴子 教授

【研究課題】

1. 「創造的表現活動」を主軸にする担当授業「保育内容表現」「保育の総合的指導法 音楽表現」は、コロナ禍を経て2023年度から制限のない授業内容を実施した。2024年度以降、従来の内容を実施する部分・コロナ禍を機に新しく展開する部分を検討・省察してさらに授業内容研究を進める。また2020年度からの過程を感染予防対策下での授業実践事例として残したい。
2. 子どもと学生や保育者が、声・音・言葉・動き・表情などにより音楽的にコミュニケーションする事例の観察研究を目指し、適切な時期に機会を探したい。

【教育課題】

1. 前期「保育内容表現」は主に理論と表現全体に関する学び、後期「保育の総合的指導法 音楽表現」はより音楽に特化した専門的・実践的保育方法の学びへとステップアップする学習を1年間を通して実施した。2023年度～本学1年次科目「子どもと音楽」（前島麻衣助教担当）と「音楽表現」のコラボ方法を共同研究し教職研究で発表した。2024年度は連携内容を具体化した授業計画を立案、歌う・奏でる・創る・繋がるを柱に、子どもの主体的な表現・音楽あそび・活動に関わる保育実践力を養う、本学ならではの学修プラン・モデルを構築したい。
2. 近年の日本の音楽教育全体の課題である「音楽を創る」をテーマに、学生が主体的に学ぶ創造的な表現活動（音楽や表現を創る活動）を主軸に、個性を生かした協働的、創造的、想像的な授業実践を目指す。ICT、ポートフォリオなどの積極的活用により学生の学習段階・学習成果の可視化を工夫したい。
3. 2023年度は対面での授業回数が通常に戻ったので、学生の創作うた遊びの楽譜作成課題を復活した。楽譜作成は個々のレベルに差異が大きいため、個別的な指導についてさらに工夫しより良い授業実践を目指す。

4. 教務委員会2年目は委員会・教育学習支援ユニットの業務について理解を深め、担当業務に見通しを立てて取組む。「学びのハンドブック」は学生の学びを支援する役割をより明確に意識した内容・掲載方法・掲載順などを検討、2023年度は部分的に「学びのハンドブック」の改訂に取組んだ。2024年度も利便性が高く和泉の教育の魅力を伝える紙面を目指す。
5. 「入学前教育の充実」について、2023年度実施内容（主体的な学習意欲の錬成を目的に大学での学びに備える各種ガイダンスの充実と共に「4月からの授業が楽しみになるプログラム」学生間コミュニケーションを引き出すゲーム、不安解消のための短大生活体験ツアー、サークル見学会など）の省察と改善。
6. 授業「キャリアデザイン」カリキュラム改訂、第2回リカレント講座により入学前教育から大学授業と実習、地域・社会の保育・福祉に貢献する専門職対象のリカレント教育へと繋がる本学ならではの養成教育の実現を目指す。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本音楽教育学会

矢野 由佳子 准教授

【研究課題】

1. 保育者のメンタルヘルスと職場風土に関する調査研究
2. 乳幼児の発達と心理臨床の実践

【教育課題】

1. 子どもや保護者の心に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接する保育者の育成
2. 心身の健康管理に留意できる保育者の育成

【学会参加予定】

日本発達心理学会 日本心理臨床学会 他

中野 陽子 准教授

【研究課題】

1. 知的障害者の支援をするソーシャルワーカーの専門性に関する研究
2. 障害者の権利擁護に関する研究

【教育課題】

1. 人権を護り、多様性を尊重し、共生社会の実現ができる保育者の養成
2. 特別な配慮が必要な子どもの支援ができる保育者の養成
3. 障害者施設における支援の魅力を伝え、就職先の選択肢の一つになるようにしていく
4. 社会福祉士や特別支援学校教諭免許状取得に向けた編入学を推奨していく

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本発達障害学会

【社会的活動】

1. 県立さがみ緑風園第三者委員
2. 相模原市市民オンブズマン
3. 相模原市指定管理者選考委員会委員長

久 保 小枝子 准教授

【研究課題】

1. 絵本など児童文化財が乳幼児の発達に与える影響を研究
2. 青年期における宗教心の芽生えとその育成を調査・研究
3. 保育実習、教育実習の学生への支援のあり方についての研究
4. 現職教育（幼稚園教諭、保育士）の育成－保育の質の向上を目指して－

【教育課題】

1. さまざまな授業を通して、基礎学力が身につくように指導する。
2. 学生が保育職への意識を高め、主体的に学ぶための教育方法を探る。
3. 「保育内容の総合的指導法 言葉」「保育内容総論」「キリスト教保育」「保育・教職実践演習」の講義や演習を充実させるために、学生が保育現場の具体的な事例から学べるように工夫する。理論と実践の統合を目指す講義、演習を行えるように努める。
4. 学生の学習環境についてアンケートや聞き取りを行い、より質の高い充実した環境整備を学生と共に探る。
5. 学生の委員会活動などを通して学生主体で企画、運営する機会を設け、必要な支援をしながら、協同性を育む。
6. 学生が自分の適正に合った保育、福祉の就職先を選択するための指導に力を注ぐ。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本キリスト教教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. 子どものための芸術と遊びフォーラム

【社会的活動】

1. 大学・短期大学基準協会認証評価 評価員
2. キリスト教保育連盟『キリスト教保育』『実践からの学び』執筆
3. 相模原市保育士キャリアアップ研修講師
4. 横浜YMCA県内14園ある保育園のスーパーバイザー
5. 山形県私立幼稚園・認定こども園協会 教職員研修会講師
6. こひつじ文庫アドバイザー
7. 横浜市子ども青少年局保育・教育支援課 保育所民間移管選考委員会委員

八 代 陽 子 准教授

【研究課題】

1. 食物アレルギーを有する子どもへの対応の検討
食物アレルギー対応に関する先行研究から、保育者に必要な食物アレルギー対応スキルにつ

いて検討をする。

2. 保育現場における保育者と看護師の連携～保育者・看護師の専門性に視点を当てて～
保育者・看護師の専門性に関する先行研究から、保育現場における保育者と看護師の連携について検討をする。
3. 乳児とモノの出会いとかかわりに関する研究
ポートフォリオの分析を通して、保育現場において乳児はどのようにモノと出会い関わるのかについて検討する。
4. 保育者の成長に関する研究
保育者の意味づけに視点を当て、保育者養成校段階・新人保育者・ミドルリーダーなど各段階における保育者の成長について研究を進める。

【教育課題】

1. 子ども理解を深める教材研究
子ども側から子どもの世界を感じ見ることを通して、子ども理解を深め自身の保育を振り返ることのできる教材研究を進める。
2. 食物アレルギーを持つ子どもの理解と援助に着目した授業内容の検討・教材研究
【研究課題1】を踏まえ、「食物アレルギーを持つ子どもとのかかわり」に関する授業内容の検討・教材研究を進める。

【所属学会等】

1. 2008年4月～ 日本看護協会
2. 2008年11月～ 日本医療保育学会
3. 2011年4月～ 日本保育学会
4. 2012年7月～ 日本乳幼児教育学会
5. 2012年9月～ 日本発達心理学会
6. 2013年6月～ 日本小児保健協会
7. 2013年7月～ 日本保育保健協議会
8. 2016年9月～ 日本保育者養成教育学会
9. 2016年10月～ 保育教諭養成課程研究会
10. 2017年6月～ 日本学校保健学会
11. 2021年8月～ 日本乳幼児教育・保育者養成学会
12. 2022年6月～ 日本質的心理学会

和 寺 悠 佳 准教授・チャプレン

【研究課題】

1. キリスト教学校における伝道に関する研究
2. 日本におけるキリスト教神学の受容と展開、および教会形成に関する研究（明治期の日本組合基督教会を主たる対象とする）
3. 日本のキリスト教会の背景としてのアメリカ神学、教会史に関する研究（会衆派を中心とする）
4. 比較宗教史の観点による日本のキリスト教の特色に関する研究

【教育課題】

1. チャペルアワーにおいて、イエス・キリストの福音を正しく伝え、建学の精神であるキリスト教信仰を指し示すことにより、学生が本学での学びの基盤を形成できるように努める。
2. キリスト教科目の授業において、聖書の福音、建学の精神を教導することを通し、学生がキリスト教信仰に対して主体的に向き合い、神から与えられた自らの使命を問うように促し、保育・福祉のよき担い手の養成に資する。
3. 学生が自主的にキリスト教活動に関われるように導く。

【学会参加予定】

1. キリスト教史学会
2. 日本基督教学会
3. 日本思想史学会
4. 横浜プロテスタント史研究会
5. 日本近代史研究会
6. 日本キリスト教教育学会

【社会的活動】

1. 日本基督教団教務教師
2. 明治学院大学キリスト教研究所協力研究員
3. 学校法人フェリス女学院評議員

中 安 恆 太 准教授

【研究課題】

「小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）を家庭養護と位置付ける意義と課題」

近年、日本においては家庭養護（里親やファミリーホーム等）の促進が図られているが、ファミリーホームは、第2種社会福祉事業のため施設的な側面があり、里親と比較すると公的支援の活用が限られている。そのため、養育者の負担が増えることが予測される。この2年間でファミリーホームを家庭養護として位置付ける課題の背景を史的展開から整理し（2022年度、2023年度本学紀要投稿）、養育者の考えるファミリーホーム養育の意義と課題を整理した（2022年度子ども家庭福祉学投稿）。本年度は養育者がなぜファミリーホーム養育を行うのか、その背景を属性から整理し、必要な支援を検討する。

【教育課題】

担当科目では、学生が施設実習や現場実践に役立てる知識・技術・倫理が得られよう分かりやすい授業を展開する。具体的には、テキストに書かれている内容を落とし込むための資料提供やDVD視聴、グループワーク等を行う。また、虐待やヤングケアラー等、子どもやその家庭を取り巻く環境が複雑化しているため、保育者として必要な支援のあり方を探求する視点を養う。

また、本年度より新たに「教育政策と社会（児童の権利）」を担当するため、子どもアドボカシー学会の参加や、権利侵害を受けた当事者活動のサポート等を行い、学生へ還元する。

【社会的活動】

1. 一般社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験委員会 委員
2. 相模原市子どもの権利相談室 救済委員

3. 相模原市社会福祉審議会 委員
4. 相模原市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 分科会長
5. 相模原市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 児童部会 部会長
6. 相模原市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 児童虐待検証部会 委員
7. 社会福祉法人ル・プリくるみ会事業本部 オンブズマン
8. 社会福祉法人グリーン 選任解任委員
9. 東京都養育家庭の会みどり支部イベント運営

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本子ども家庭福祉学会
3. 日本子ども虐待防止学会
4. 子どもアドボカシー学会

横 地 厚 准教授

【研究課題】

1. 地域福祉推進における人材育成に関する研究
2. 東日本大震災における被災地支援に関する研究
3. 社会的孤立に関する研究
4. 権利擁護に関する研究

【教育課題】

1. 保育士・幼稚園教諭養成課程における社会福祉・ソーシャルワーク教育を展開する。
2. 子どもの権利擁護者としての意識を高める。
3. 地域貢献活動への支援に取り組む。

【学会参加予定】

1. 日本地域福祉学会
2. 日本社会福祉学会
3. 日本福祉教育・ボランティア学習学会

吉 田 久仁子 准教授

【研究課題】

1. キリスト教保育の担い手としての理事会に関する研究
2. 3.11 を通して、教会と教会幼稚園が果たした中間集団としての役割についての研究
3. 保育者の人間関係についての研究-子ども・保護者・保育者-
4. 厚生省事務官として玉川保母専門学院開設に関わり、後に和泉短期大学教授となった副島ハマと和泉短期大学創設時から保育原理を担当したドイツ人宣教師であるゲルトルート・エリザベート・キュックリヒ教授の保育思想と関係性が戦後日本の保育に与えた影響に関する研究

【教育課題】

1. 東日本大震災・原発事故の経験を通して、「災害と保育」「保育者のあるべき姿」について学生と共に考える。

2. 社会福祉法人ちいろば会（日本キリスト教団原町教会）と和泉短大、南相馬市との連携協働により地方と首都圏の人的交流と質の高い保育者人材育成に取り組む。具体的には被災地のスタディーツアーと社会福祉法人ちいろば会保育施設でのインターンシップを継続する。
3. 保育現場の映像やエピソードを交えて、保育の理論と実践が結びつく講義を展開し、学生自身も保育を語れるように演習を積み重ねる努力をする。

【社会的活動】

1. 被災地スタディーツアー新企画
2. 東日本大震災と原発事故後の帰還困難地域や避難指示解除後の地域など、被災地の生の現場を見るとともに復興に取り組む様々な立場の人たちの話を聞き考える。
3. いずみ祭にて南相馬スタディーツアーの報告と福島県産品の紹介をする。
4. 小規模保育園と保育園でのフィールドワーク

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本キリスト教教育学会
3. 日本子ども虐待防止学会
4. 地域安全学会
5. OMEP 日本委員会

星 早 織 専任講師

【研究課題】

1. 乳児保育の質の向上に関する研究
2. 保育者養成における学生の成長プロセスに関する研究
3. 子育て支援の充実に関する研究

【教育課題】

1. 担当教科において、教材及び保育現場での事例を通して学生が自ら考え、また他者と協力し知見を広げられるような演習授業を設定する。
2. 学生自身が保育を客観的に捉え、評価・反省ができる保育者となれるよう記録する力を身につけられるよう授業を構成する。
3. ICT化が進む保育現場の現状に合わせ、実践現場で生きるスキルを身につけられるような授業内容を目指す。
4. グループ担任として、学生が入学から卒業までの見通しを持ち、充実した学生生活が送れるようグループ運営に努める。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. 日本社会福祉学会

前 島 麻 衣 助教

【研究課題】

1. 保育現場での音・音楽のあり方について

保育現場の幼児の音楽表現について現場に足を運び、研究を深めていく

2. 幼児の音楽表現を支える保育者について

授業と実習の経験から、幼児の音楽表現を支える保育者に必要なことを考えていく

3. 養成校で学ぶ学生の音楽経験について

学生の音楽歴や音楽に関する調査研究

【教育課題】

1. 「子どもと音楽」の授業内容と方法について

2. 学生の実習準備の支援方法について

3. 聖歌隊の取り組みについて

4. 本学における学生と共に行う子育て支援の取り組みについて

中山 恭一 助教

【研究課題】

1. 統計手法及び ICT 活用の教育手法の可能性

2. ライフステージに応じたコンディショニングと運動プログラムの開発

3. 「運動遊び」「体育・スポーツ」からの子ども達への発達支援研究（配慮の必要な子ども達を含む）

4. 分かりやすく、実践出来る【保育内容「健康」】及び【同領域 総合的指導法】の実践授業研究

【教育課題】

1. 体育・スポーツの専門分野からなる科学的根拠を基に実践出来る保育者養成

2. 相手を尊重し寄り添う関わりを大切にする学生サポート

3. 健全な心身を併せ持つ人材育成

4. 生涯スポーツへの円滑な移行

5. 配慮の必要な子ども達が必要とする運動遊び・体育・スポーツのあり方について

【学会参加予定】

1. 日本体育学会

2. 日本保育学会

3. 子どもとからだと心・連絡会議

4. 日本発育発達学会

5. 日本幼少児健康教育学会

6. 日本学校保健学会

杉田 美香 助教

【研究課題】

1. 保育者・子育て支援者のアイデンティティについて

2. 保育者を目指す学生が、実習等を通じて成長する過程について

3. 大正～昭和初期の幼稚園園舎とその教育的意義について

【教育課題】

1. 保育実習・教育実習指導においては、学生の思いを理解し、共有して、実習に取り組むことができるようにする

2. 保育者を目指す学生が、保育の意義、役割を学び、本人ならではの保育が実践できるようにするための意識を持ち、免許・資格取得への意欲を持てるようにする。

【学会参加予定】

1. 日本発達心理学会
2. 日本保育学会
3. こども環境学会
4. 子どもと保育総合研究所（セミナー）

専攻科ヒューマンケア専攻

佐藤 美紀 准教授

【研究活動】

1. 専攻科における実習前の不安に関する要因について

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉学会
2. 認知症ケア学会

佐久間 志保子 特任教授

【研究活動】

1. 障害者施設支援における対象者のアセスメントの導入のあり方
2. 高齢者施設における感染症対策

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉教育学会
2. 日本認知症ケア学会

中野 志津江 特任助教

【研究課題】

1. 介護実習Ⅰ・Ⅱについての研究
2. 医療的ケアの実際と課題
3. 保育士の国家資格や幼稚園教諭の資格を取得している学生を対象とした死生観についての研究
4. 人生最終段階のケアについて（アドバンス・ケア・プランニング）の研究

【教育課題】

1. 医療職との連携のもとに医療的ケアを安全に適切に行う為の知識と技能を習得できるよう学生目線で授業の工夫を図り、繰り返し学習しながら学び合えるように努める。
2. ライフサイクルの各期の身体、心理、社会的特徴を踏まえた上で、老化に伴う変化と高齢者に多い疾病や障害について理解し、日常生活への影響についてイメージできる授業の工夫を図る。
3. 人体の構造や機能、こころやからだのしくみなど基礎的な知識を理解した上で、加齢による身体機能や心理的、精神的機能の低下及び障害が日常生活動作や暮らし方にどのように影響するのかを考え、援助に結びつけて理解できるよう努める。
また、イメージしやすい資料等の工夫を図る。

4. 終末期の身体的変化や死後の身体変化を理解できるように教授法を工夫する。死にゆく人とその家族に対して死の受容過程を学び、様々な死生観を通して、人生最終段階のケアのあり方やグリーフケアについて考える。またお互い学び合い、対象の尊厳を尊重する態度やコミュニケーションについて自ら気づけるよう努める。
5. 学生がより質の高い充実した実習ができるよう実習準備を行い、実習環境を調整し、学生の不安の軽減に努め目標の到達に向けて主体的に学べるよう学生と共に考え、支援する。また、実習の目標達成のために介護総合演習Ⅰ・Ⅱにおいて学生の目線に立ち、実習のサポートができるような視点で授業内容を検討しながら進めていく。

【学会参加予定】

1. 日本リハビリテーション看護学会
2. 日本看護学会
3. 日本臨床死生学会
4. 日本介護福祉教育学会
5. 東京大学人文社会系研究科 死生学・応用心理センター上廣講座《医療・介護従事者のための死生学》参加登録

【社会的活動】

1. 学校法人 鶴嶺学園 評議員

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 山本 美貴子）

教務委員会は、教務委員会規則により（1）教育課程に関する事項、（2）試験に関する事項、（3）学籍の異動に関する事項、（4）その他、教務に関することを所掌事項とし、次の項目にそつて計画・運営を行う。

1. 教育の内容
2. 教育の環境整備
3. 教育目標の達成度と教育効果
4. 学生支援
5. 卒業生への再教育支援
6. 教員の交流と研究活動の支援
7. 保護者(保証人)との連携
8. 各種の連携
9. 教育情報の公開
10. 新設独自資格「こども支援ソーシャルワーク」

各項目の2024年度計画について以下に具体的な取組について重点課題を中心に記載する。これらの計画は関係する他の委員会等との十分な調整等を行い最善の方法を模索して実施する。

なお、2023年度から配慮対応を開始したCOVID-19感染症・インフルエンザ感染症等を含む「学校感染症」について、引き続き基本的な感染対策を呼び掛け安心・安全な環境を整えて教育内容の質の確保に努める。

1. 教育の内容

(1)教育課程について

- ・COVID-19禍を経た最新の本学教育内容に照らし、最新の3つのポリシー・「5つのコンピテンシー（ディプロマサプリ）」「和泉の10の力」に応じたカリキュラムツリー（専門科目系統ナンバリング）とルーブリック（学習到達度指標・アセスメントプラン）等の更新を心掛ける。

(2)幼稚園教諭免許・保育士資格取得の支援・キャリア教育の充実

- ・キャリア教育の推進（キャリアデザインセンター、ポートフォリオ、保育・福祉専門職のキャリア教育のあり方の検討 等、「学生委員会」「学びのマネジメントWG」との協働）
- ・各種実践体験による教育内容の充実（インターンシップ①保育（ふれあい体験）、インターンシップ②福祉施設、インターンシップ③幼稚園保育体験、はっぴい・すまいりいスタッフ、各種ボランティア体験、福島県南相馬市スタディーツアー等）
- ・保育実習指導者研修への参入（全国保育士養成協議会、横浜市、相模原市保育課）

(3)学生の主体的な学び・活動の支援

- ・1.2年生交流授業・学生の主体的な課外活動等の促進
2023年度より実施が可能となった全回通常対面授業・式典と記念礼拝・いずみ祭等の行事・課外活動（委員会・サークル活動など）について、クラス（授業クラス・アドバイザークラス）および学年等の枠を越えた多様な交流がさらに盛んになり、学生の豊かな経験を提供する機会となる様に、引き続き様々な教職員委員会・WG、学生組織と連携して情報を共有する。さらに2024年度は高大連携の取組に生かすことを目指す。
- ・授業クラス5クラスから4クラス化により学生の時間割の空きコマ・自由な時間の確保を図る。

2024年度は、まず1年生4授業クラス運営を開始、引き続き、2025年度2年生4授業クラス運営を目指し、学年を超えた教育プログラムおよび学生の委員会・課外活動等の充実を促進

する。

(4) F D ・ S D の充実

- ・ 自己点検・評価報告書の作成（「自己点検・評価委員会」との協働）
- ・ 学生による授業評価の改善及び公表のあり方の検討（ICT 教育内容との連携を含む）
- ・ 教員懇談会・教職員懇談会の開催
- ・ 全教員参加の FD 研修会開催

(5) 教育充実のための各種委員会との連携

- ・ 学びの組織的支援充実、実態に即した業務内容の検討・実施のための構造整備（教務委員会サブ組織等の整備と確認）
- ・ IR 委員会、学びのつながり WG、実習サポート委員会、学生委員会等との連携により、ICT 化に伴う学生の教育・情報・支援に関わる全ての業務の一本化・情報共有や対応の効率化を実現し組織的総合的なサポートが可能な体制を構築する。
- ・ 保育・幼児教育関係・保育士養成課程／幼稚園教諭養成課程の動向に関する情報収集（「IR 委員会」との協働）
- ・ 離学者改善検討委員会との協働により学生の就学意欲の強化を目指す。（3.（4）項参照）

(6) シラバス作成管理（シラバス作成要綱）及び教育内容の点検

- ・ ルーブリックに沿ったシラバス作成要綱の更新と運用
- ・ アクティブ・ラーニングの実際、課題内容の共有・調整等を図る。
本学の特色ある教育：1 時限 105 分授業／前期・後期、各期 13 週のシステムが、アクティブラーニング（能動的学習・課題解決型学習（PBL））等促進や往還型学習の促進に有効活用されているか検討する。

(7) 入学前教育から 1 年次教育への学びの繋がり構築

- ・ 「保育者を目指す学びへの支援」に関するカリキュラムの検討
- ・ 学びのつながり WG 等と連携し、初年次教育（大学におけるスタートカリキュラム）のあり方を検討する
- ・ 特に、進学動機・学習意欲の活性化に効果的・魅力的な「入学前教育から各期オリエンテーション・キャリアデザイン I ・ II、実習指導授業・インターンシップ・教材「学びのハンドブックの有機的な連動、プログラムや学習内容の「つながり」に注目し、検討する。
- ・ 入学前教育の内容「大学での学習の目的・方法を知る」「進学・学びの始まりを楽しみにするプログラム」の充実
初めて取り組んだ 2024 年度生入学前教育プログラムを土台に、12 月プレ入学前プログラム・1 月第 1 回～3 月第 3 回の内容、テキスト「つながるワーク」のブック化等について、検討する。
- ・ 学生の大学での学習内容等の理解を深める役割の強化・利便性の向上・積極的な活用を目的に再編・改訂した「学びのハンドブック」について、効果の検証・改善内容を検討する。

2. 教育の環境整備

(1) 全体的な教育環境の整備・改善

- ・ アクリル板の撤去と教室備品・消耗品の充実
- ・ 教室間格差の是正による利便性の向上

(2) 教育用機器備品の整備

- ・2024年度初めに完成を予定しているIT教育環境の整備（学生ホール・及びIT関連授業の教室環境整備 4号館A-1・A-2教室へのインターネット回線及びWi-Fiの導入）を活用したICT教育・学生活動の充実を図る。

3. 教育目標の達成度と教育効果

(1) 授業評価方法について

- ・現状の教育内容に照らした、学習到達度・ルーブリック、学習到達度調査・アセスメントの妥当性の検証
- ・ルーブリック・シラバスに即し、アクティブラーニング等多様な学習に有効な成績評価方法と、その厳格な運用の推進
- ・学習成果（成績評価）結果の学生本人へのフィードバック、自主的な学習評価に関する検討

(2) 学生ニーズを知るためのアンケートの有効活用

- ・卒業時アンケート等について、和泉の10の力を指標にしながら、卒業後アンケートを担当する学生委員会と連携を図りアンケート項目を検討する。
- ・多様な学生（職業訓練委託生・社会人学生等）が大学教育に求める内容や学びづらさ等を丁寧に聴き取り向き合う。

(3) 教育効果等の把握のためのルーブリック・学習到達度調査（アセスメントテスト）・学習成果（教育効果）可視化の取組（IzumiPurpose）の有効活用

- ・2023年度より具体的に実施している学習成果の可視化（ICT化）システムIzumiPurposeについて、学生が理解しやすい可視化のあり方・各科目の授業到達目標の学生理解度も把握等により教育実践の向上に向けた教育カリキュラムの改善への最適な方法を検討する。
- ・学びのマネジメントWGとの協働により、「2023年度JACA第2回短期大学生調査及び短期大学卒業生調査データ活用セミナー」による研修を経て、より教育的効果が高く効率的な取組みについて新しい可能性を探る。

(4) 離学者対策（離学者改善検討委員会との協働）

- ・学習成果の可視化（ICT化）システムIzumiPurpose等の結果分析を全専任教員対象のFD研修会として導入業者からの説明により共有、授業クラス・学年・個々の学生毎の現在の学びに向かう意欲や学習状況の把握に資する情報を提供、こうした取組みにより、初期の段階で学習意欲低下を把握し個別対応に繋ぐ機会の提供、学習生活の躓きの要因を探り対策を検討などの具体的な手立てを実施、最善の方法を検討する。
- ・実習サポート委員会との連携による保育士資格・幼稚園教諭免許取得の支援の充実により進路への意欲の継続を支援する。
- ・保育士資格・幼稚園教諭免許以外の資格取得支援等により、在学・卒業意欲の強化を図る。
- ・課外活動・その他の充実により、多様な学生の居場所・就学の楽しさを提供する。

4. 学生支援

(1) 個別的な学習支援

- ・ラーニングセンターwill担当者変更に伴い、さらに充実した個別的学習支援の提供
- ・個別的・継続的な学習支援を実現する各目的別支援員の職務内容充実をサポート

(2) 障がいその他の特別の配慮を要する多様な学生への修学支援の拡大に応じた運用

(「障がいのある学生等修学支援委員会」との協働)

- ・ 2023 年度生から、1 月第 1 回入学前教育で提示(第 3 回入学前教育時提出予定)
- ・ 2024 年度より「障がいのある学生等修学支援」より 1 段階手前の支援を提供するシステムを導入し、グループアドバイザー・授業担当教員・相談対応職員と連携して学生の学び難さに対応する幅広い環境を用意する。
- ・ 2022 年度施行された「和泉短期大学における学生の通称名使用の取扱いに関する規程通称・別名使用」規程の運用について、合格通知と同送し最初から全ての個人書類に反映させてトラブルを未然に防ぎ学生にとって効果的な対応を目指す。
- ・ 多様な学生（職業訓練委託生・社会人学生等）のクラス配置と学習支援
- ・ 学習支援の実態について、具体的に省察したことがらについて、個人情報保護に十分配慮した方法により全教員に周知を図る。
- ・ 引き続き、多様な学生が大学教育に求める内容や学びづらさ等に丁寧に向き合う。

(3) 保育士資格・幼稚園教諭免許以外の資格取得の支援（おもちゃインストラクター・MOS 等）

5. 卒業生・社会人のキャリアアップ・キャリアチェンジ支援

(1) 卒業生・専門職社会人対象のリカレント教育の充実

- ・ 2023年度新設された「本学リカレント講座－現任研修・公開講座」の実施支援により、卒業生・現職専門職の教育的支援の充実を図る。2024年度8月講座テーマ「福祉の今」

(2) 継続的なリカレント講座開講の検討

(3) 大学公開講座の充実（相模原市との連携を模索）

6. 教員の交流と研究活動の支援

(1) 全教員打合せ会及び授業内調整会の実施（前年度 2 月末実施）

- ・ 2024 年度本学の教育方針・理念や建学の精神等の再確認
- ・ 授業 5 クラスから 4 クラス化への説明。アクティブラーニングの促進についてアンケートを実施。
- ・ 学生対応等のサポートについて情報共有を図る。

(2) 教員の授業運営・学生対応の支援

- ・ 非常勤講師のオフィスアワーの明確化
- ・ 教員（特に非常勤講師）の学生対応の情報提供と支援

(3) 研究活動の支援

- ・ 研究費の活用、外部研究資金調達への支援 研究日及び研究期間の保障等に関する情報提供
- ・ 文部科学省等による外部資金獲得に向けた情報提供（FD）
- ・ 本学を取りまく教育活動・学務・地域連携・教育機関連携・広報活動等のニーズは高まる一方となり、教職員担当業務の複雑化・多様化・会議時間の増加により、授業および活動の準備・研究時間の確保は継続的な課題となっている。研究のための一定の期間と時間が確保されるよう、学事を工夫する。
- ・ 2024 年度は、まず 1 年生 4 授業クラス運営を開始する。引き続き、2025 年度 2 年生 4 授業クラス運営により授業時間数を 1 コマずつ減じて、学生の拘束時間減と同時に、多様な担当業

務・研究等の負担軽減を目指し、効果的運用を検討する。

- ・研究紀要・教職研究への投稿、及び学会参加・発表、共同研究等へ促進を図ると共に、2023年度より本格稼働した本学研究倫理委員会との連携により、精度の高い研究活動を支援する。

7. 保護者（保証人）との連携の充実

- (1)保証人会の開催（4月・10月）
- (2)保護者（保証人）への成績報告

8. 学外との各種連携（質の高い保育・福祉実践の充実を目指して）

- (1)小・中・高等学校との連携強化（早期からの教育的連携プログラムの充実）

- ・高等学校との教育連携・市内高校校長との教育研究会の充実

本学と市内高等学校との関係作りは一定の効果を得ていると言える。さらに教育環境の複雑化・多様化を図る社会情勢に鑑み、本学の地域性・専門性を活かして高大の教育活動に効果的な具体的・継続的な連携を結ぶフェーズに一步を踏み出したい。

- ・市内に限定せず中高大の教育的連携の早期実現を目指す。はっぴい・すまいりい等の地域連携・学生の教育プログラム・キリスト教主義保育者養成校の特色を生かした行事や式典等への中高生の参加を実現し、本学の教育内容の周知・広報効果、中高大学生相互の学び合いの機会の提供、保育・福祉分野への若い世代の興味・関心の拡大等の効果を目指す。

- (2)地域との連携による本学教育内容の公開・公開講座等

（地域連携推進センター・入試広報委員会との協働）

- (3)産官学連携による保育・福祉環境の充実

（日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育連絡協議会、相模原市高齢者福祉施設協議会 等）

- (4)専門職団体等との連携の充実（リカレント講座の具体的構築）

（キリスト教保育連盟、日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育連絡協議会、神奈川県保育士会、神奈川県介護福祉士会 等との協働）

- (5)卒業生・専門職社会人との連携（キャリア教育の推進）

9. 教育情報の公開

- (1)教育情報の開示（主にHP上に公開）

- ・ポリシー3種・シラバス等、基本的教育内容の公表
- ・自己点検・評価報告書の公表（「自己点検・評価委員会」との協働）
- ・教員情報の公表

- (2)「公的研究費の管理・監査ガイドライン」に基づく体制整備

- (3)「教育職員免許法施行規則第22条の6に既定する情報」の公表

- (4)『教職研究』の発行

- ・講義・演習の質の向上と教職課程の科目に準ずる研究業績の保存・蓄積を目的に論集『教職研究』を出版。主に担当科目の授業研究等に関する研究結果を掲載。

10. 2023年度から開講・開設・本学独自資格「こども支援ソーシャルワーク」と関連授業の
充実

- ・独自資格の学習内容の魅力発信と2024年度選択授業の周知
- ・集中講義開講、体験実施等の支援

学生委員会（学生部長 横川 剛毅）

1. 学生生活の支援に関する業務

(1) 学生への教育内容・連絡事項の周知に関する業務

- ① 学生サポートブックの編纂
- ② 掲示板・ウェブサイトでの周知、GoogleClassroomでの配信

(2) 学生生活の充実にかかる業務

- ① サークル活動の再開に向けた準備、及び周知
- ② サークル申請受付とサークル決定、活動日の調整、学生への注意事項などの周知
- ③ サークル活動にかかる活動の様子確認
- ④ いずみ祭に向けた学生、学内関係部署学外各所への周知と参画要請
- ⑤ いずみ祭の開催と、結果に基づく振り返り、及び次年度に向けた準備の開始
- ⑥ その他、学生生活上の諸事項に関する意見の聞き取りと対応

(3) アドバイザーによるグループ指導の支援に関する業務

- ① グループミーティングのスケジュール管理とサポート
- ② 学生カードの受付・管理・個々の状況や指導内容の共有

(4) スクールバス利用に関する業務

- ① 車内環境に関する連絡・調整
- ② スクールバス車内の学生対応・指導に関する支援（情報共有・乗車指導等）
- ③ 利用者である学生意見聴取やグループワーク（専攻科も含む全学年）の実施
- ④ 利用マナー向上を目的としたオリエンテーション、掲示によるマナー向上への働きかけ

2. 学生の健康に関する業務

(1) 健康管理センターに関する業務

- ① 健康管理センター委員会開催による、学生の健康管理に関する検討・実施
- ② 保健室の利用ルールの学生への周知
- ③ 利用に関する連絡・調整・記録の作成
- ④ グループアドバイザー・各委員会との連携（入学時健康状況アンケート特記事項共有など）
- ⑤ 毎月発行の「健康管理センターだより」による、健康教育及び啓発の実施

(2) 健康診断に関する業務

- ① 学事予定における日程調整
- ② 担当医療機関との連絡・調整・支援
- ③ 各委員会・ユニットとの連携
- ④ 学生への当日の手順・ルールなどの周知
- ⑤ 健康診断結果の配布・調整

(3) 普通救命講習Ⅲに関する業務

- ①委託先との日程調整・連絡・支援
- ②学生への周知・受講に関する支援

(4) 障がいのある学生等修学支援に関する業務 <障がいのある学生等修学支援委員会>

- ①申請書の受付
- ②障がいのある学生等修学支援委員会の召集（日程調整・連絡）
- ③申請内容・支援内容の検討
- ④教務委員会・グループアドバイザーとの連携（依頼書の作成・情報の提供）
- ⑤修学に困り感をもつ学生の相談・支援にかかる、新たな申請枠組みでの実施

3. 感染症に関する業務 <健康管理センター運営委員会>

(1) 学校保健安全法に指定された感染症に関する業務

- ①和泉短期大学感染対策方針の周知
- ②和泉短期大学感染対策方針に基づいた学生対応の実施

(2) 体調に変化がある学生に関する業務

- ①体調不良・検査受診学生の連絡窓口・相談・指導
- ②感染者確認時の行政などへの報告・HP での情報公開

4. 進路支援に関する業務 <就職委員会>

(1) 授業「キャリアデザイン」に関する業務

- ①年間スケジュールの立案・教務委員会との連携（一般教養試験対策講座など）
- ②学事における日程調整
- ③委託先への依頼・日程内容調整
- ④教室・担当者の決定・周知
- ⑤提出レポートの管理・アドバイザーとの連携

(2) 就職支援に関する業務

- ①学生への進路に関するルールの周知（サポートブック・キャリアデザイン）
- ②学生への求人情報の開示（進路支援センター内掲示・ウェブサイト）
- ③就職試験に関する支援・相談・指導
- ④就職先へ募集要項受付の案内発送・ルールの周知
- ⑤就職先との連携（訪問者の面談・情報提供・本学卒業生の就労状況に関する雇用先の満足度調査－卒業生の雇用に関する満足度調査など）
- ⑥卒業生（卒業後3～7年対象）向けに、勤務状況と本学の教育の成果と効果についてのアンケート実施
- ⑦就職懇談会の企画・調整・実施（キャリアデザイン）

(3) 就職先に関する業務

- ①雇用に関する満足度調査の実施
- ②授業科目「キャリアデザインⅡ 就職懇談会」に関する依頼・調整・当日の支援
- ③就職先内定後研修の情報収集、養成校と就職先の連携方法や内容提言の検討

5. 学生の経済的支援に関する業務

(1) 奨学金に関する業務 <和泉奨学金委員会>

① 本学独自奨学金の情報提供・募集・選定・手続き支援

- ・和泉奨学金・眞鍋記念奨学金・児童福祉奨学金・学修奨励奨学金
- ・学生ボランティア活動奨励奨学金・愛のいずみ基金など

② 外部奨学金の情報提供・募集・選定・手続き支援

- ・日本学生支援機構奨学金・篠原欣子記念財団奨学金・保育士修学資金貸付金
- ・生命保険協会介護福祉士就学資金・介護福祉士修学資金貸付金など

(2) 学生保険に関する業務

① 学生教育研究災害傷害保険の手続き

② 学生への情報提供・手続き支援

6. 学生の賞罰に関する業務

(1) 表彰に関する業務

[眞鍋記念賞・讃岐和家記念賞・中島武夫記念賞・伊藤忠利記念賞]

[学長賞・ボランティア活動奨励賞]

① 各賞についての周知（学生サポートブック）

② 教職員へ推薦者募集の周知・受付・資料作成

③ 受賞者の選定（教授会）・受賞者への連絡

④ 表彰式の日程調整・贈呈者へ依頼・実施

⑤ 情報の公開（ウェブサイト・IZUMI NEWS など）

(2) 懲戒処分に関する業務

① 事象発生の把握・情報収集

② 危機管理委員会への情報提供・日程調整

③ 当該学生（保証人）への連絡・手続きの支援

④ 情報の公開の検討・調整・実施

7. 学友会・各種学生の委員会活動に関する業務

(1) 学友会活動への支援に関する業務

① 年度当初の大学との意見交換実施

② 新入生オリエンテーションでのガイダンス支援（前年度内の準備など）

③ 学友会主催行事（スポーツ大会等）開催の支援

④ 新入生勧誘企画の支援（サークル勧誘デーなどの準備・機材貸与）

⑤ 学友会総会（5月・12月）開催の支援

（日程調整、委任状・アンケート準備、予算案・活動計画・学生総会結果の周知）

⑥ 学生の大学教育活動と参加に関する企画・支援（感染症予防対策・教育的活動など）

⑦ 大学との意見交換（振り返り）の実施

⑧ 執行部の活動の支援

- ・各部門の担当決め・新年度学友会委員顔合わせなどの支援

- ・学友会運営の支援・後期1年生執行部決めの支援・総会準備

- ⑨学友会予算の検討
- ⑩学友会からの卒業記念品の検討
- (2)各種学生の委員会活動（SA委員会など）への支援
 - ①学生の委員会・人数の検討・調整
 - ②委員会と活動内容の周知（学生サポートブック）
 - ③入学・進級時オリエンテーションでの周知
 - ④グループアドバイザーへの情報提供・委員決定の依頼
 - ⑤各委員会の活動支援
- (3)いずみ祭に関する業務
 - ①年間の活動スケジュールの立案・調整
 - ②いずみ祭実行委員会、授業科目担当者、サークルとの連携・活動支援
 - ③学外諸機関・諸団体との連絡調整
 - ④飲食出店等に関する企画立案、外部各社・地域との連絡・相談などの支援
 - ⑤父母会・後援会・同窓会との連携
 - ⑥各ユニットとの連携（情報提供・日程調整・職務分掌・打ち合わせ会など）
- (4)卒業イベント（卒業・修了証書授与式後のイベント等）に関する業務
 - ①学事予定における日程調整、及び卒業イベント内容の検討
 - ②教育・学習支援ユニットとの連携（式典との時間・内容調整など）
 - ③各ユニットとの連携（庶務ユニットとのバス運行予定調整など）
 - ④父母会との連携（ガウン貸し出し支援）
 - ⑤卒業イベント委員会への情報提供・開催準備の支援
 - ⑥父母会・後援会・同窓会・協力各社宛 招待状（感謝状）の作成・発送の支援
 - ⑦メモリーブックの作成に関する業務

8. 課外活動に関する業務

- (1)課外活動への支援に関する業務
 - ①学友会サークル部門及びサークル顧問との連携・活動支援
 - ②学内外諸活動に関する支援
 - ③活動申請の支援（活動申請書・活動届・引率・交通費等）
 - ④サークルバスの運行に関する連絡・調整
 - ⑤サークル活動日の職員の勤務調整

9. 父母会・後援会に関する業務

- (1)父母会との連携に関する業務
 - ①父母会の日程調整・周知・準備・運営
- (2)父母会との連携に関する業務
 - ①父母会総会の開催の支援（通知・記録など）
 - ②父母会報の発行の支援（データ・写真提供）
 - ③父母会活動の支援（業者との調整－植栽・観葉植物・卒業ガウン保管など）
- (3)後援会との連携に関する業務

- ①後援会活動の支援（活動計画・活動予定・予算）
- ②後援会総会開催の支援（日程調整・通知・会場準備・記録）
- ③会報発行の支援（データ・写真提供）

10. 卒業生に関する業務

- (1) 卒業生アンケートの結果を統計処理して分析・検討と、ウェブサイトでの公表
- (2) 就職情報の提供（既卒者募集情報）
- (3) 住所・氏名変更などの受付・登録（卒業時のみ。卒業後の担当は同窓会）

2024 年度重点課題

- (1) サークル等学内外諸活動の活性化とその支援
- (2) 心豊かな学生生活を実現するための学友会活動支援
- (3) いずみ祭の基本方針に基づく実施
- (4) 学生生活全般マナーの向上・改善方法の検討と強化
- (5) 個々の学生の修学支援（家庭・学習・経済的な状況に応じ、各部署・GAと連携）
- (6) 多様な学生の困り感の把握とその軽減による離学防止
- (7) 委託生の修学支援（学内各所との連携・学生生活状況の把握等）
- (8) 保育・福祉現場でのアルバイト支援による、学生の学びと生活のサポート
- (9) 授業科目キャリアデザインのあり方・内容の検討
- (10) 学生一人ひとりに合わせた進路支援の充実（就職・進学）
- (11) ステークホルダーとの連携強化

入試広報委員会（入試広報部長 松山 洋平）

1. 広報関係

- (1) 学園報（IZUMI NEWS）の発行（4回／年）
- (2) 入学案内冊子の作成及び充実のための検討、デジタル化の推進
- (3) 保育・福祉業界への現状周知のための冊子の作成
- (4) 入試対策の開催及び充実のための検討（来校型オープンキャンパスのプログラムの再構築）
オープンキャンパス 10 回、ナイトオープンキャンパス 5 回、キャンパス見学会、
LINE 個別相談随時、WEB 動画配信による大学紹介、入試説明など
- (5) ホームページ及び SNS（X、LINE、Facebook、TikTok、Instagram）によるニュース
配信や充実のための検討
- (6) 進学相談会等（高校教員進学説明会 2 回、高等学校・小・中学校・保育施設合同の「保育・
福祉授業研究プログラム」、神奈川県私立短期大学協会かながわ短大フェア）
- (7) オープンキャンパススタッフ学生、ワークスタディ学生の育成及び卒業生、入学前教育との
連携
- (8) 高等学校進路説明会（進学説明、模擬授業）の開催及び卒業生活用も含めた充実の検討、
データ活用に基づく訪問の強化
- (9) 公開講座（市民大学・さがまちカレッジ等）充実のための検討
- (10) 公開授業（市内小学校・中学校・高校[高大接続授業]）の開催及び充実のための検討

- (11)和泉授業体験会（和泉プレカレッジ）の開催
- (12)保育・福祉職への関心を高めるための中等教育との連携強化（入試広報戦略）
- (13)相模原市保育連絡協議会、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育士会、相模原市園長会、横浜市幼稚園協会、神奈川県幼稚園協会等の産業界、相模原市保育課、教育委員会、保育士等人材確保推進事業等の自治体等との連携強化（地域連携活動の強化）「第2次中期計画（2020年度～2024年度）15のビジョン」に向けた対応
- (14)地方学生に向けた取り組み（不動産会社との連携について）
- (15)同窓会との交流
- (16)その他の広報活動の遂行

2. 入試関係

- (1)学校推薦型選抜指定校の選定と選考方法の変更
- (2)総合型選抜の提出書類の変更と保育福祉コース、授業参加コースの充実
- (3)入学案内書の充実
- (4)入試マルわかりBOOK、入試対策ブックの改定
- (5)スカラシップ入試の充実に向けた検討
- (6)神奈川県専門人材育成コース 委託訓練生の募集
- (7)他大学の入試関係データ収集
- (8)他大学の入学者状況の把握
- (9)その他の入試関係業務の遂行

実習サポート委員会（実習サポートセンター長 矢野 由佳子）

1. 実習に関する業務

- (1)実習先施設の選定・連絡・調整
 - ①実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
 - ②実習指導連絡会の実施（保育実習・教育実習／年2回）
 - ③「実習・実習指導 実施要項－実習指導のミニマムダイヤモンド」作成と実習先への送付
- (2)実習実施に関わる業務
 - ①保育実習Ⅰ（保育所・施設）実習先確保と1月期・2月期調整
 - ②上記①の実施期間の一本化への努力（1月期：保育所、2月期：施設）
 - ③登録課題（希望実習先レポート）の受付と配属
 - ④学生の諸手続の支援（希望実習先レポート、実習生個人票、各種検査結果の扱い、実習の記録、実習定期など）
 - ⑤実習指導担当教員への学生の事前事後学習状況の把握・実習中止に関する手続きなどの支援（各種フォーマットの作成、配布）
 - ⑥腸内細菌検査・予防接種抗体検査などに関する伝達・調整（実習先・学生・教員）
 - ⑦健康管理センターとの連携（専門職としての健康などに関する指導、健康状況に関する相談・連携、検査結果の理解など）
 - ⑧巡回指導担当教員の巡回先希望調査、配属調整、発表
 - ⑨巡回指導にかかわる手土産・謝礼・交通費などの手続き

- ⑩実習に関する問い合わせの受付・伝達・調整（実習先・学生・保証人・教員）
- ⑪学生の実習実施状況に関する情報、実習巡回指導記録の管理
- ⑫実習先パンフレットなど関連資料の収集と学生への提供
- (3) 学生の個別的支援を要する事例について
 - ①実習指導授業担当教員との連携・協議など
 - ②障がいのある学生等修学支援委員会との連携・協議など（実習に関する支援）

2. 実習指導授業に関する業務

- (1) 授業「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案・支援
 - ①授業実施計画の立案と実習授業・実習指導計画一覧の作成、配布
 - ②実習指導授業の企画・運営（各種：全体、1・2年生合同、実習先別、施設種別など）
 - ③実習の事前・事後指導に活用する教材の編纂・印刷・配布
 - ④実習事前学習としての複数面談の企画・資料作成・実施
 - ⑤「実習指導授業」担当教員の支援（情報提供、資料作成、予定表・フォーマット作成など）
- (2) 「実習指導授業」の内容・方法の研究・改訂
 - ①実習授業・実習指導計画の立案。授業「キャリアデザイン」・学事との日程調整。
 - ②「実習ルールブック」作成、配布
 - ③実習の記録（日誌）の作成、配布
 - ④改訂版「実習ステップブック」の活用（発行日までの教材準備）
 - ⑤SA（スチューデント・アシスタント）への支援、指導
- (3) 他授業・委員会と関連した業務
 - ①「ふれあい体験・ボランティア活動」と連携し、実習指導授業内で保育を学ぶ学生のマナー・モラルについての授業を実施
 - ②学生の実習支援に関して健康管理センター（健康管理センター運営委員会）・障がいのある学生等修学支援委員会との連携
 - ③こども支援ソーシャルワーカー資格に伴う福祉現場体験の依頼施設への依頼状の送付、回答書の管理、体験先の学生への伝達

3. 2024年度の重点課題

- (1) 実習指導連絡会の充実のため、教務委員会、学生委員会と連携する。
- (2) 引き続き、個別的支援を要する学生への対応について、健康管理センター・各部署・授業担当教員との連携・協議を図る。（障がいのある学生等修学支援申請書による円滑な連携・支援方法、学生委員会・授業担当教員ほかとの具体的な連携方法の構築）
- (3) 科目等履修生への対応について、実習先・学生・授業担当教員・関連部署との確実な連絡・調整・協議を実習サポートセンターを中心にいき、円滑な支援を目指す。
- (4) 学びのマネジメントWGとの連携による実習指導内容の精査・充実。
ポートフォリオ・GoogleClassroomを活用した学生への連絡について検討・充実。特に事前学習教材「生活技術に関する資料」の検証・活用
- (5) 2024年度実習サポートセンター体制での職務分掌・作業や連絡時期と方法の検討、及び協力体制・支援の質の維持を実現する。更に迅速・丁寧・正確・充実した学生・指導担当教員の支

援の向上を目指す。

- (6) 実習管理システムの改善を継続し、情報提供の質の向上を図る。
- (7) 引き続き、実習先・学生・授業担当教員・関連部署との確実な連絡・調整・協議を可能にする支援・作業方法の周知を目指す（書類・各種フローチャート・メール・電話など）
- (8) 引き続き、実習ごとに定められた実習(学習)の内容・目標、本学の実習実施・単位認定のルールなど、基礎的・基本的な実習指導内容を確実に修められる、全クラス共通のカリキュラムの実践を目指し、テキスト「実習ステップブック」・「実習ルールブック」・「実習の記録」を活用した授業実践支援方法の研究・改善・充実に努める。
- (9) 学生の事前・実習中・事後の学習の充実・向上に関わる「実習の記録」(日誌)の作成や、実習目標の内容理解について、実習指導以外の授業科目との連携を図り、指導内容の向上を目指す。
- (10) 学習意欲・学習効果を高め、学習の目標を明確にイメージする授業内容を目指す。グループ・全体・1.2年生共同・グループ合同・施設種別・実習先別授業など学習内容に最適な授業形態を工夫、また will・CDC を活用した自己学習の連携・構成を図る。

地域連携推進センター委員会（委員長 松浦 浩樹）

本委員会は、次の委員会、ワーキンググループを設置し活動を行う。

【図書委員会】（委員長 松浦 浩樹）

1. 研究紀要発行に関する検討
 - ① 査読付き論文を含む研究紀要第 44 号の発行
 - ② 研究紀要の電子化の検討
2. 特設展示の充実
 - ① 新着図書紹介
 - ② 各種特集図書の別置・企画展示
3. 蔵書の充実
 - ① 保育に関する専門書及び絵本の充実
 - ② 選書バイヤーツアーによる蔵書購入
 - ③ シラバスに基づいた蔵書の構築
 - ④ 電子書籍及びデータベースの導入に向けた検討
4. 図書館利用者サービスの向上
 - ① 書架案内表示の充実
 - ② 卒業生・入学予定者の利用の周知
 - ③ すまいる参加者・市民大学講座受講者等、地域住民等が利用しやすい環境づくり
 - ④ 図書館利用者教育、図書館ツアーの実施
5. 図書館利用者のモラル向上
 - ① 人的環境整備（掲示・声かけ等の取り組み強化）
 - ② 図書未返却者への督促強化
 - ③ 資料の紛失等への対策強化
 - ④ 利用者の拡大に伴う防犯対策の充実

6. 図書館ワークスタディアルバイト学生の活用

① 募集方法の開拓

7. 図書館サポーター活動の充実

① 選書ツアー（3. ②）

② POP製作・展示

③ 学生からの意見・提案聴取

8. 図書館主宰イベントの実施

① 折り紙コンテストを2023年度よりPOPコンテストに変更し実施

② クリスマスイベント（お楽しみ抽選会）を2024年度より廃止

③ その他（館内上映会開催等）

9. 図書館ホームページの充実、リンクの充実

10. ラーニングセンターwillとの連携

11. 相模原市内大学図書館と相模原市立図書館との相互協力連絡会への参加

12. 全国図書館大会への参加

13. 卒業生、特別利用者の利用者手続き

14. 感染予防対策の継続的取組

① 館内換気

② 入場時の手指消毒・マスク着用の提示

15. 中長期将来計画案の作成

図書館利用について、現状のニーズに対応できていない。そのため以下の点について、中長期的に検討を重ねる。

① 現状「図書館」でよいのか？「図書室」ではないか。

② 図書館の位置：本館1階

もしくは体育館リトミック室+A-1、A-2 教室へ

この場合リトミック室を現101教室に総合実習室として移動

コミュニティーサロン（コンビニ）を総合支援センター（第2事務室）に

③ 蔵書の管理体制

④ 図書館利用（ルール等）の抜本的改革

【地域連携推進委員会】（委員長 松浦 浩樹）

地域と連携して行う活動の窓口となり、定例的に行っている以下の活動を中心に、随時地域貢献事業を検討、実施する。

1. 学生のボランティア活動の支援・情報提供

① ボランティア募集に関する情報提供と実施に関する支援

- ・ボランティア活動の推奨、パンフレット・チラシ・ポスター等の掲示・配付
- ・ボランティア活動届の配付・受付

② 相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度への応募促進

- ・学生に対するボランティア活動の推奨と本制度の周知
- ・相模原市への推薦業務

③学生サークル等のボランティア活動支援

- ・赤い羽根募金運動含む

2. オレンジリボン活動

① オレンジリボン・キャンペーン（相模原市包括連携協定校事業関連）への協力と協働

- ・オレンジリボン作成、街頭配布への学生参加促進
- ・図書館内に子ども虐待防止啓発コーナーの設置
- ・学内とユニコムプラザ内本学ブースにオレンジリボン配置他

② オレンジリボン運動（（NPO 法人）児童虐待防止全国ネットワーク）への登録・報告

- ・学内に子ども虐待防止の啓発ポスター等の掲示
- ・マスク配布（学内とユニコムプラザ内本学ブースに配置他）

3. ユニコムプラザ関連事業への協力

- ① まちづくりフェスタ参加
- ② 多胎児フェスタへの協力
- ③ その他関連事業への協力（さがまちチャレンジ等）

4. さがまちコンソーシアム関連

- ① 「市民大学」開催
- ② さがまちカレッジ開催
- ③ さがまちインターンシップ、さがまち学生 Club 等学生参加の活動の紹介と参加促進
- ④ 市民大学連絡会議議長職担当（輪番制）

5. さがまち地域教育連携プラットフォーム（代表校：青山学院大）に参画

（私立大学等改革支援事業：タイプ3「地域社会への貢献」（プラットフォーム型））

この一部である「地域交流イベント」の実行委員会の責任校として本委員会がこれを担う。

もとより案のあった麻溝畜産会「たまご街道」と本学が事業協力し、地域における両社の存在感と存在価値を高める企画を拡大し、相模原市役所・商工会議所青年部、および関連事業（企業）団体と連携を図りつつ、プラットフォーム参加大学間の学生交流を促進し、地域産業の振興を企てていく。

- ① 地域交流イベント実行委員会の開催（本実行委員会での企画作成）
- ② 協賛事業所等の連携（相模原市役所・商工会議所青年部・出版社及び書店・広告作成会社等）
- ③ 開催予定時期 2024年11月
- ④ さがまちPFとの連携

6. 関連事項・ニュース等の把握・広報

- ① 相模原市中央区光が丘地区まちづくり会議への参加と協力
- ② 学生食堂の地域開放（利用者数の把握）
- ③ 関連団体の会合出席と情報共有

【子育て支援プログラム（はっぴい・すまいりい）ワーキンググループ】

（委員長 吉田 久仁子）

1. 子育てひろば「はっぴい」の開催（年間10回＝4.8月を除く毎月1回、土曜日）

- ① 子育て家族への支援

安心・安全な遊び場の提供と、季節に応じた活動、良質の文化・芸術に触れる体験の提供
保育支援者によるサポート体制を整え、参加者からの相談に応じる。

ワーキンググループ委員の他、専任教員の参加（年1回）

② 学生に実践的な学びの場を提供する

乳幼児とのふれあい・保護者とのコミュニケーションの場の提供

学生主体の企画を発表する場の提供

事前準備から当日終了までの計画立案・環境整備に関わる機会の提供

参加学生との交流・実践的研修の提供

③ 入学前教育プログラムとして高校生参加の機会を設定する

オープンキャンパス（入試広報委員会）と連動する開催日の工夫

④ 卒業生との連携

活動時のボランティア受け入れ

子育て世代の親子参加の促進

同窓会広報活動への協力

⑤ その他

参加保護者への聞き取り、学生への調査を実施し、地域貢献活動のあり方・学生の現状と要望を探る

2. CDC の整備及び子育てひろば「すまいいい」（施設開放：授業のある毎週木曜日の実施）との連携

① 地域親子に CDC を遊び場、子育て支援の場として開放する

保育環境として相応しい維持整備を継続する

② 学生の保育就業力を支える実践の場としての環境整備

③ 蔵書のナンバーリング（バーコード）とリストの作成（図書委員会）

3. 担当教員の当番制について

従前のような専任教員全員の分担制を廃止し、専任教員のこれまでの経験値や専門性を鑑み、活動に必要な専任教員を本ワーキンググループが担当者として依頼する。

（その分、担当教員の入試関連土曜日担当数を配慮するよう入試広報委員会に依頼する）

4. 親子利用者の管理について

① 利用者カードを初回に発行し（ナンバー化）、その後の利用をスムーズにする。

・利用者氏名と続柄および連絡先、子の氏名・年齢・性別・特記する事項

・その他保険請求時に必要な情報

② 利用者の個人情報の管理を徹底すると共に利用者の利用状況をデータ化し、研究のデータとしても活用できる体制を構築する。

*感染拡大防止の観点から地域への開放を中止する場合は本学ウェブサイトより通知をする。

児童福祉研究室（室長 矢野 由佳子）

児童福祉研究室は、法人創立 60 周年を機に、和泉短期大学の建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を具現化するため 2017 年 11 月に設立された。その目的は本学教員の専門性および教育研究活動の成果を発信し、地域の保育・福祉に貢献することにある。この目的を達成するために、児童福祉研究室が行う事業として次の 5 項目が和泉短期大学児童福祉研究

室規程に定められている。

- (1) 保育・福祉に関する研究および研修会・講演会の開催等
- (2) 本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行
- (3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援
- (4) 定年退職者の最終講義録の刊行物掲載
- (5) その他、児童福祉研究室の目的の達成に必要な活動

まずは、(2) 本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行に相当する事業を展開するために、2018年度より児童福祉研究「いっしょに子育て」を年1回発刊することを定めた。そこで、2024年度においても、引き続き「いっしょに子育て」第7号を発行して、子育てに関する親しみやすい内容を提供すると同時に、地域住民と和泉短期大学の結びつきの強化を図りたいと考えている。

2024年発行の児童福祉研究「いっしょに子育て」第7号の大枠は以下を計画している。

- ① 子どもの育ちに関する専門的知見からの提言
- ② 保育・福祉に関する教育研究活動に基づいた提言
- ③ 海外の保育・子育て事情に関するレポート
- ④ 子育てに役立つ情報提供等

また、2023年度は地域の子育てへの更なる貢献を目指して、(3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援に関わる活動について検討を行った。具体的な実施には至らなかったが、2024年度は、地域連携推進委員会および「子育て支援プログラム(はっぴい・すまいいい)WG」と検討を行う。具体的には、支援者による「はっぴい」「すまいいい」での保護者への相談支援の報告と共有、「はっぴい」で保護者へ配布するプログラムに教員の専門領域を記載し、保護者からの相談のきっかけを作ること、「はっぴい」「すまいいい」内での保護者を対象としたワークショップの開催を計画している。

そして、(1) 保育・福祉に関する研究および研修会・講演会の開催等に関連し、2024年度も教員の研究支援を充実させたいと考えている。具体的にはデータ分析や論文執筆の際の疑問などに教員同士で協力し合う相談窓口としての機能・環境を構築したい。

7. 広報活動

(1) 製作・発行物

・入学案内書一式	2024年	4月上旬発行予定
・全教員紹介	2024年	4月上旬発行予定
・オープンキャンパスチラシ（4・5・6月分）	2024年	4月上旬配布予定
・保護者向け冊子	2024年	4月中旬配布予定
・首都圏高等学校送付入学案内書パック	2024年	4月下旬発送予定
・IZUMI NEWS 61号	2024年	5月下旬発行予定
" 62号	2024年	8月上旬発行予定
" 63号	2024年	12月上旬発行予定
" 64号	2025年	3月中旬発行予定
・受験生向けダイレクトメール ①(夏のオープンキャンパス)	2024年	7月上旬発送予定
・ " ②(いずみ祭)	2024年	9月下旬発送予定
・ " ③(クリスマスカード)	2024年	12月上旬発送予定
・ " ④(3月オープンキャンパス)	2025年	1月上旬発送予定

(2) 主催型広報活動

- ・高等学校教員対象進学説明会（5月2回）
- ・高大接続授業研究プログラム（6月1回、8月1回）
- ・LINE 個別相談（1年間随時）
- ・ホームページ及びSNS（X、LINE、Facebook、TikTok、Instagram）情報発信

(3) 参加型広報活動

- ・相模原市立市民・大学交流センター内「大学情報コーナー」（通年）
- ・高等学校内ガイダンス・オンラインガイダンス・模擬授業（随時）
- ・かながわ短大フェア（神奈川県私立短期大学協会）（4月）
- ・進学相談会（会場形式）（随時）

和泉短期大学

(1) インターネット関連

(2024年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
(株)ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1年間
(株)リクルートマーケティングパートナーズ	スタディサプリ進路/基本参画、学科詳細レポート (インターネット商品)	1年間
キッズコーポレーション(株)	進学ナビ (インターネット商品)	1年間
チエルコミュニケーションブリッジ(株)	ポータルサイト (高校生のキモチ) ライトプラン	1年間
(株)マイナビ	マイナビ進学 (インターネット商品)	1年間
(株)進研アド	マナビジョン短大パッケージ (インターネット商品)	1年間
ライン(株)	LINE	1年間
(株)日東システム開発	ベスト進学ネット (インターネット商品)	1年間

(2) 雑誌掲出

(2024年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
キッズコーポレーション(株)	進学の森 大学・短大カタログ	4月
(株)さんぼう	短期大学まるわかり事典 (東日本版)	4月
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK 学校見学ノート	4月 6月
(株)進路企画	大学・短大ガイドブック	4月
(株)教育通信社	進路テキスト進学編 進路テキスト進学編 オープンキャンパス日程一覧	5月
(株)進学教育研究社	「ガマダス」説明会配布用大学ガイド	4月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	4月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5月
(株)タウンニュース社	こどもタウンニュース 〃 元旦号・名刺広告・Web掲載	7月 1月
神奈川案内広告(株)	神奈川新聞 迎春名刺広告	1月
(株)ショッパー社	新年名刺広告	1月
(一社)キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10月

(3) 交通広告等掲載

(2024年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
神奈川中央交通(株)	バス停正式名称「和泉短大前」保守管理	1年間
(株)アドベル	路線バス車内放送広告 (相模大野区間・淵野辺区間)	1年間

2024年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

金額

(教員関係経費)

11,388

研究費

児童福祉学科	単価	×	教員数	金額
○ 教授	250	×	5	1,250
○ 特任教授	250	×	2	500
○ 准教授	240	×	7	1,680
○ 専任講師	230	×	2	460
○ 助教	220	×	3	660
○ 昇任対象者差額	10	×	1	10
			19	計 4,560
専攻科	単価	×	教員数	金額
○ 准教授	240	×	1	240
○ 特任教授	250	×	1	250
○ 特任助教	220	×	1	220
			3	計 710
			22名	合計 (5,270)

学長裁量費

○ 共同研究費	1,300
○ 大学教育改革プログラム	
計 1,300	

合計 6,570

教材費	○ 専任・非常勤教員	2,618
旅費交通費	○ 学会参加 1回 @50限度 1人 2回 22名	2,200

(施設)

152,536

内容	設置場所	金額
土地 ○ 土地<第2号基本金対象資産> 1,536㎡	スクールバス駐車場	繰延 ① 100,000
※ 2023年度から繰り延べ		
計 (100,000)		
建物 ○ エレベータ設置 1基	1号館	④ 48,950
○ 建物付属電気設備 受変電設備 第1変電所(1・3号館)	取替更新	④ 3,586

(設備)

5,423

内容	設置場所	金額
教育研究用機器備用品 ○ プロジェクター一式 3台	204,205,305教室	取替更新 ② 1,644
計 (1,644)		
管理用機器備用品 ○ 大型プリンター 1台	印刷室	取替更新 ⑦ 285
○ 電気錠 5台	1号館、2号館、4号館	取替更新 ⑦ 1,598
○ 入室管理ターミナル 3台	1号館、2号館	取替更新 ⑦ 880
計 (2,763)		
図書 ○ 児童福祉学科 996 専攻科 20		1,016
計 (1,016)		

2024年度 事業計画 予算

和泉短期大学

(単位:千円)

新規及び主な経費	青字	内 容	数	場 所	金額		
消 耗 品 費	○	教卓周り機材一式	2教室	201,301教室	取替更新 ②	382	
	○	ドライブレコーダー(スクールバス後方用)	4台	スクールバス	新 規 ⑦	238	
					計 (620)	
印 刷 費	○	児童福祉研究室 第6号(刊行誌)	2,000			436	
	○	学びのハンドブック	510			330	
	○	学生生活サポートブック	260			598	
	○	研究紀要	350			572	
	○	教職研究	150			129	
	○	自己点検・評価報告書	200			134	
						計 (2,199)
光 熱 水 費	○	電気	2023年度対比2割増			14,971	
	○	水道				1,214	
	○	プロパンガス				1,231	
					計 (17,416)	
維 持 修 繕 費	○	自動ドア開閉装置交換	2か所	2・4号館	取替更新 ⑦	946	
	○	食堂券売機部品交換	1台	3号館食堂	取替更新 ⑦	171	
	○	照明器具交換		1号館1階	取替更新 ⑦	1,118	
	○	学生用駐輪場ライン等塗装		1号館	更 新 ⑦	446	
	○	既存施設設備修繕費				2,800	
	○	構内樹木剪定		校地・グラウンド		2,506	
						計 (7,987)
通 信 費	○	インターネット回線 遠隔会議対応	年間使用料	2号館、4号館	継 続 ②	687	
	○	インターネット回線 遠隔授業対応		1号館、3号館	継 続 ②	565	
	○	電話料				621	
	○	卒業生アンケート(満足度・離職調査)	200,600			206	
	○	スクールバス遠隔監視システム通信料				123	
					計 (2,202)	
支 払 報 酬 手 数 料	○	配管劣化診断料			新 規 ⑧	946	
	○	勤怠管理システム利用料			更 新 ⑦	370	
	○	電子稟議書経路検索オプション利用料			新 規 ⑥	95	
	○	電子稟議書年額利用料	年間使用料	庶務ユニット	継 続 ⑥	546	
	○	電子帳簿法対応システム使用料	2024年1月施行	庶務ユニット	継 続 ⑥	40	
	○	派遣職員費用	2名	経理・広報	継 続 ⑦	6,215	
	○	学修成果の可視化システム年間使用料	年間管理料	教学ユニット	継 続 ②	1,100	
	○	SPSSソフト保守料		学術情報	継 続 ⑦	225	
	○	アセスメントテスト(基礎力リサーチ)	1.2年生	4回	継 続 ②	1,605	
	○	Zoom 法人契約アカウント使用料	38アカウント		継 続 ②	678	
	○	MS包括ライセンス	55		継 続 ②	596	
	○	授業目的公衆送信保証金	学生数	著作権	継 続 ②	257	
	○	スクールバス運行料	4台			34,848	
	○	監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬他				3,845	
	○	校医料、健康診断料				702	
	○	食堂委託管理費				2,515	
	○	管理人業務費 機械警備含む				5,708	
	○	Web出願システム、Tiktok業務委託				767	
	○	業務用システム維持支援費		教学		462	
	○	学生・教職員安否確認システム				198	
						計 (61,718)

2024年度 事業計画 予算

和泉短期大学

新規等の主な経費

(単位:千円)

賃借料	内 容	数	場 所	金 額
○	コロナ対策 ウイルス除去装置	26台	13教室他	継続 ③ 973
○	コロナ対策 ウイルス除去装置	20台	9教室	継続 ③ 454
○	教員用ノートパソコン	30台	研究室他	627
○	複合機・印刷機	5台	1号館・2号館	429
○	ファイアーウォール		1号館設置	783
○	職員用 パソコン デスクトップ	24台、サーバー2台	事務局	1,252
○	防犯カメラシステム一式(再リース)	19か所	学内外	70
○	学生用パソコン ノート	50台	212教室	1,541
○	スクールバス 再リース	4台	大型3台、中型1台	7,912
○	AEDリース料	3台		124
○	借植木	大鉢 8、中鉢 5	1号館	385
○	公用車リース料	1台	軽自動車	360
○	スクールバス駐車場賃料	1,536㎡	2号館隣地	2,640
計 (17,550)
奨学費 (給付)	内 容	人数	目的	金額
○	高等教育の修学制度による奨学費	25名	入学金・授業料	1年生 ⑤ 21,750
○	高等教育の修学制度による奨学費	30名	授業料	2年生 ⑤ 16,327
○	スカラシップ特待生奨学費	5名	入学金・授業料一部	1年生 ⑤ 1,500
○	眞鍋記念奨学金	10名		650
○	児童福祉奨学金	8名		900
○	卒業生・在学生家族	12名		350
○	学修奨励奨学金	15名		1,370
○	ボランティア活動奨励奨学金	1名		50
○	愛のいづみ基金奨学金	1名		500
○	専攻科 学業修学資金	1名		300
○	さがみ愛育会 スカラシップ	2名		1,000
計 (44,697)
広報宣伝費	内 容	個数	場 所	金額
○	和泉短期大学前停留所車内放送		淵野辺駅行き、相模大野駅行き区間	継続 185
○	入学案内書、媒体広告他			19,276
○	業務用システム維持支援費		広報	462
計 (19,923)
清掃費	内 容		場 所	金額
○	日常清掃、定期清掃		全 館	13,957
計 (13,957)
雑費	内 容			金額
○	卒業パーティー			300
○	FD・SD研修費			200
○	卒業記念品他			270
計 (770)
保険料	内 容			金額
○	外部理事、監事、評議員対象 役員賠償保険、役員傷害保険	22名		新規 ⑨ 167
計 (167)

※ 2024年度 重点事業計画

①	土地取得経費	2号館隣接地	①	100,000
②	遠隔教育・ICT教育関連・学修成果の可視化システム他		②	7,514
③	新型コロナウイルス等感染症対策		③	1,427
④	エレベータ設置 受変電設備取替更新	1号館・第1変電所	④	52,536
⑤	奨学費(高等教育修学支援制度)他	60名 補助金対象	⑤	39,577
⑥	電子稟議、電帳法、Web出願対策他	D X対策	⑥	681
⑦	教育環境整備費等		⑦	12,492
⑧	配管劣化診断料		⑧	946
⑨	外部理事、監事、評議員対象 役員賠償保険、役員傷害保険		⑨	167

計 215,340

資金収支計算書 (2020年度 ~ 2024年度)

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

科 目	2020年度	2021年度	決 算	予 算	予 算	
			2022年度	2023年度	2024年度	
収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	469,342	482,195	457,359	444,490	371,290
	手数料収入	7,141	5,990	6,383	6,356	6,116
	寄付金収入	2,740	2,727	2,224	1,000	1,000
	補助金収入	73,648	85,313	80,857	93,157	70,547
	資産売却収入	0	0	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	16,406	21,161	24,260	27,367	33,272
	受取利息・配当金収入	20,639	20,270	20,039	20,700	25,860
	雑収入	22,506	84,589	45,923	6,900	7,756
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	165,330	130,095	132,410	119,870	126,975
	その他の収入	2,160,726	2,272,064	2,589,401	148,635	112,489
	資金収入調整勘定	△ 165,096	△ 262,350	△ 172,830	△ 141,044	△ 108,696
	資金収入計	2,773,382	2,842,054	3,186,026	727,431	646,609
	前年度繰越支払資金	1,904,164	1,284,569	1,098,588	1,020,000	850,000
	合 計	4,677,546	4,126,623	4,284,614	1,747,431	1,496,609
支 出 の 部	人件費支出	397,535	454,368	403,000	356,927	373,392
	教育研究経費支出	152,953	137,390	136,965	175,172	149,990
	管理経費支出	113,185	104,530	106,757	114,572	103,941
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	20,280	3,119	450	101,010	152,536
	設備関係支出	3,044	906	2,109	1,435	5,423
	資産運用支出	2,689,706	2,375,390	2,576,775	69,670	71,860
	その他の支出	30,680	21,965	76,924	45,087	7,223
	予備費支出	0	0	0	30,000	30,000
	資金支出調整勘定	△ 14,406	△ 69,633	△ 38,010	0	0
	資金支出計	3,392,977	3,028,035	3,264,970	893,873	894,365
	翌年度繰越支払資金	1,284,569	1,098,588	1,019,644	853,558	602,244
合 計	4,677,546	4,126,623	4,284,614	1,747,431	1,496,609	
資金収支差額	△ 619,595	△ 185,981	△ 78,944	△ 166,442	△ 247,756	
予算学生数	380名	382名	392名	363名	326名	
収容定員充足率 2024年度 400名	80.4%	81.4%	89.6%	90.8%	81.5%	
専門学校(専攻科)学生数	15名	20名	17名	21名	20名	
前年度対比学生数	5名	△7名	18名	△25名	△38名	

事業活動収支計算書 (2020年度 ~ 2024年度)

学校法人和泉短期大学 (単位:千円)

科 目		決 算										
		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		
		金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	469,342	77.0%	483,010	68.9%	457,884	71.8%	444,490	74.1%	371,290	72.0%
		手数料	7,141	1.2%	5,990	0.9%	6,383	1.0%	6,356	1.1%	6,116	1.2%
		寄付金	2,740	0.4%	3,050	0.4%	2,224	0.3%	1,000	0.2%	1,000	0.2%
		経常費補助金	70,651	11.6%	83,010	11.8%	80,857	12.7%	93,157	15.5%	70,547	13.7%
		付随事業収入	16,406	2.7%	21,161	3.0%	24,260	3.8%	27,367	4.6%	33,272	6.5%
		雑収入	22,506	3.7%	84,347	12.0%	45,923	7.2%	6,900	1.2%	7,756	1.5%
		教育活動収入計	588,786	96.6%	680,568	97.1%	617,531	96.9%	579,270	96.5%	489,981	95.0%
	事業活動支出の部	人件費	393,304	64.5%	449,733	64.2%	414,880	65.1%	370,056	61.7%	386,720	75.0%
		教育研究経費支出	207,420	34.0%	188,816	26.9%	185,813	29.1%	224,242	37.4%	197,102	38.2%
		(減価償却額)	54,460	7.6%	51,106	6.8%	48,848	6.8%	49,070	6.9%	47,112	6.8%
		管理経費支出	119,982	19.7%	112,074	16.0%	114,201	17.9%	121,949	20.3%	111,268	21.6%
		(減価償却額)	7,473	1.0%	7,505	1.0%	7,463	1.0%	7,377	1.0%	7,327	1.1%
		徴収不能額			815	0.1%	525	0.1%				
		教育活動支出計	720,706	118.3%	751,438	107.2%	715,419	112.2%	716,247	119.4%	695,090	134.7%
教育活動収支差額		△ 131,920	-22.4%	△ 70,870	-10.4%	△ 97,888	-15.9%	△ 136,977	-23.6%	△ 205,109	-41.9%	
教育活動外収支	事業活動外収支	資産運用収入	20,639	3.4%	20,270	2.9%	20,039	3.1%	20,700	3.5%	25,860	5.0%
		教育活動外収入計	20,639		20,270		20,039		20,700		25,860	
		教育活動外支出計	0		0		0		0		0	
		教育活動外収支差額	20,639		20,270		20,039		20,700		25,860	
経常収支差額		△ 111,281	-18.3%	△ 50,600	-7.2%	△ 77,849	-12.2%	△ 116,277	-19.4%	△ 179,249	-34.7%	
特別収支	事業活動収支	資産売却差額	0		0		0		0		0	
		その他の特別収入	2,997	0.5%	2,544	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		特別収入計	2,997		2,544		0		0		0	
		資産処分差額	461		558		354					
		その他の特別支出	0		0		0		0		0	
		特別支出計	461		558		354		0		0	
特別収支差額		2,536		1,986		△ 354		0		0		
【予備費】								30,000		30,000		
事業活動収入		612,422		703,382		637,570		599,970		515,841		
事業活動支出		721,167		751,996		715,773		746,247		725,090		
基本金組入前当年度収支差額 = 事業活動収支差額		△ 108,745	-17.8%	△ 48,614	-6.9%	△ 78,203	-12.3%	△ 146,277	-24.4%	△ 209,249	-40.6%	
基本金組入額		△ 5,604		△ 1,573		△ 2,239		△ 3,396		△ 55,096		
当年度収支差額		△ 114,349		△ 50,187		△ 80,442		△ 149,673		△ 264,345		
前年度繰越収支差額		2,752,868		2,638,519		2,590,517		2,510,075		2,360,402		
基本金取崩額		0		2,185				0				
翌年度繰越収支差額		2,638,519		2,590,517		2,510,075		2,360,402		2,096,057		
事業活動収支差額比率		-17.8%		-6.9%		-12.3%		-24.4%		-40.6%		
教育活動収入 - (教育活動支出 - 減価償却費)		△ 69,987		△ 12,259		△ 41,577		△ 80,530		△ 150,670		

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
基本金組入額	△ 5,604	0.9%	△ 1,573	0.2%	△ 2,239	0.4%	△ 3,396	0.6%	△ 55,096	10.7%
(第1号基本金組入額)	△ 3,935	0.6%		0.0%	△ 614	0.1%	△ 101,856	17.0%	△ 153,236	29.7%
(第2号基本金組入額)				0.0%		0.0%	100,000	-16.7%	100,000	-19.4%
(第3号基本金組入額)	△ 1,669	0.3%	△ 1,573	0.2%	△ 1,625	0.3%	△ 1,540	0.3%	△ 1,860	0.4%
(第4号基本金組入額)	0		0		0		0		0	